

岩見沢市社会福祉協議会 地域福祉活動計画

支え合い 共に生きる 住みよい地域づくり



平成 30 年4月

社会福祉法人岩見沢市社会福祉協議会

目 次

第 1 章 計画策定にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・P 1

- 1 地域福祉活動計画とは
- 2 計画策定の背景と趣旨
- 3 地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係
- 4 計画期間
- 5 計画の策定方法及び進行管理

第 2 章 地域福祉を取り巻く現状と課題・・・・・・・・P 4

- 1 岩見沢市の概況
- 2 岩見沢市社会福祉協議会地域福祉事業の現状と課題
- 3 アンケート調査結果から見てきた地域福祉の課題

第 3 章 計画の基本的な考え方・・・・・・・・P 2 0

- 1 基本理念
- 2 基本目標
- 3 地域福祉活動計画の体系図

第 4 章 基本目標と具体的な取組・・・・・・・・P 2 4

- 1 基本目標 1 地域課題を発見・共有できる基盤づくり
- 2 基本目標 2 つながり・支え合う地域づくり
- 3 基本目標 3 地域の福祉を担う人づくり
- 4 基本目標 4 安全・安心して暮らせる地域づくり
- 5 基本目標 5 地域から信頼される組織づくり

資料編・・・・・・・・P 3 9

- 1 地域福祉活動計画策定の取組み経過
- 2 地域福祉活動計画策定に係る委員名簿
- 3 地域福祉活動計画策定に係るアンケート調査の概要について
- 4 社会福祉法人岩見沢市社会福祉協議会組織機構図

第1章 計画策定にあたって

1 地域福祉活動計画とは

地域福祉活動計画は、「わがまちの社会福祉協議会がどのような福祉のまちづくりを目指すか」を地域住民に明らかにするものです。

岩見沢市社会福祉協議会は、社会福祉法において「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」として位置づけられており、様々な福祉課題に対応するため、地域住民、ボランティア、福祉団体、行政などと協働のもと、実践する具体的な活動計画です。

2 計画策定の背景と趣旨

近年、少子高齢社会の進展や核家族をはじめとする生活様式の変化に伴い、地域社会や家庭の様相は大きく変容し、さらに、ひきこもりなどの社会的孤立、経済的困窮、虐待や悪質商法、権利擁護の課題など、深刻な生活課題は広がっています。

このような状況の中で、公的機関や専門職による制度に基づく支援だけではなく、地域住民一人ひとりの生活課題や問題を地域全体の課題として認識し、だれもが地域で自分らしく安心して暮らしていくために、自らが生活課題を解決していこうとする主体性（自助）、身近な地域住民同士の支え合いや助け合い、ボランティアや NPO など組織的な支え合い（共助）、行政等による公的サービス（公助）がお互いに補い合い、連携・協働しながら課題解決に向けた地域福祉の推進の取組が求められています。

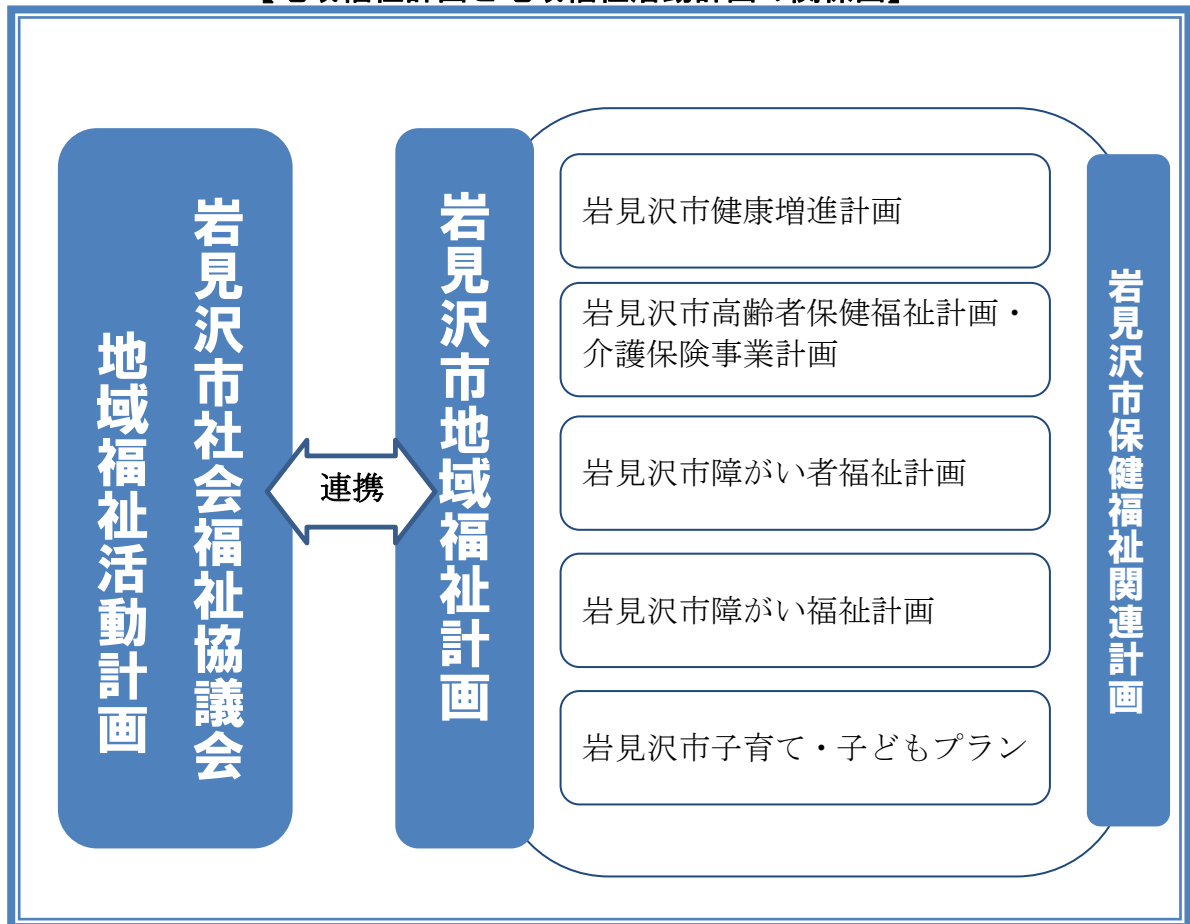
また、社会福祉法人制度の改革として掲げられた、地域における公益的な取組を実施する責務とともに、地域に開かれた、市民から必要とされる社会福祉協議会を目指し、平成 29 年 3 月に岩見沢市が策定した「岩見沢市地域福祉計画」を踏まえ、地域住民、ボランティア、福祉団体、行政などと協働のもと、岩見沢市における地域福祉の推進に向け「地域福祉活動計画」を策定します。

3 地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係

岩見沢市地域福祉計画は地域福祉を推進するための「理念」と「仕組」をつくる計画であるのに対し、社会福祉協議会の「地域福祉活動計画」は民間、住民の立場から策定するもので、地域住民が主体となって取組む指針となるべく、地域住民や福祉関係団体、福祉事業者が協働して地域福祉推進を進めていく具体的な活動計画です。

計画としては別々のものですが、岩見沢市における地域福祉向上という目的は同様のため、これら二つの計画の整合性を図り、車の両輪となって岩見沢市における地域福祉の推進を図っていきます。

【地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係図】



4 計画期間

計画期間は、平成30年度から平成34年度までの5年間とします。

5 計画の策定方法及び進行管理

この計画は、岩見沢市における福祉の現状と課題を把握、整理し、その課題を解決していくために取組方針を掲げます。

また、市内の福祉施設、関係機関、ボランティア団体等で日頃の業務及び活動で感じている福祉課題等について把握し、計画策定や今後の施策の検討に資する基礎資料を得るためアンケート調査を行うとともに、岩見沢市が市民を対象に実施した「地域福祉に関する市民アンケート」の中から反映すべき項目を盛り込み、岩見沢市地域福祉計画と整合性を図りながら策定しました。

なお、本計画策定後の社会情勢や財政状況、福祉諸制度の改変に対応するため、地域生活福祉部会で計画の進捗状況の検証や見直しを図り、関係機関と連携を図りながら計画の進行管理に努めていきます。

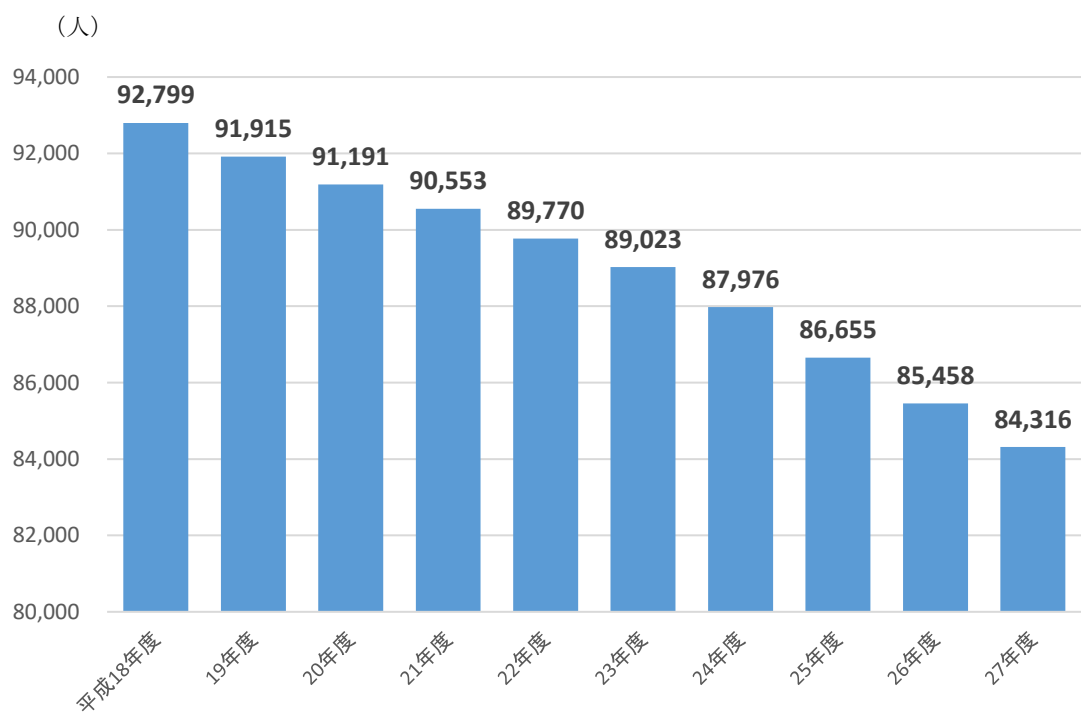
第2章 地域福祉を取り巻く現状と課題

1 岩見沢市の概況（岩見沢市地域福祉計画から転載）

（1）人口

平成28年3月31日現在の人口は84,316人で、近年、減少を続けており、市町村合併後の平成18年から平成27年までの10年間に8,483人減少しています。

人口の推移



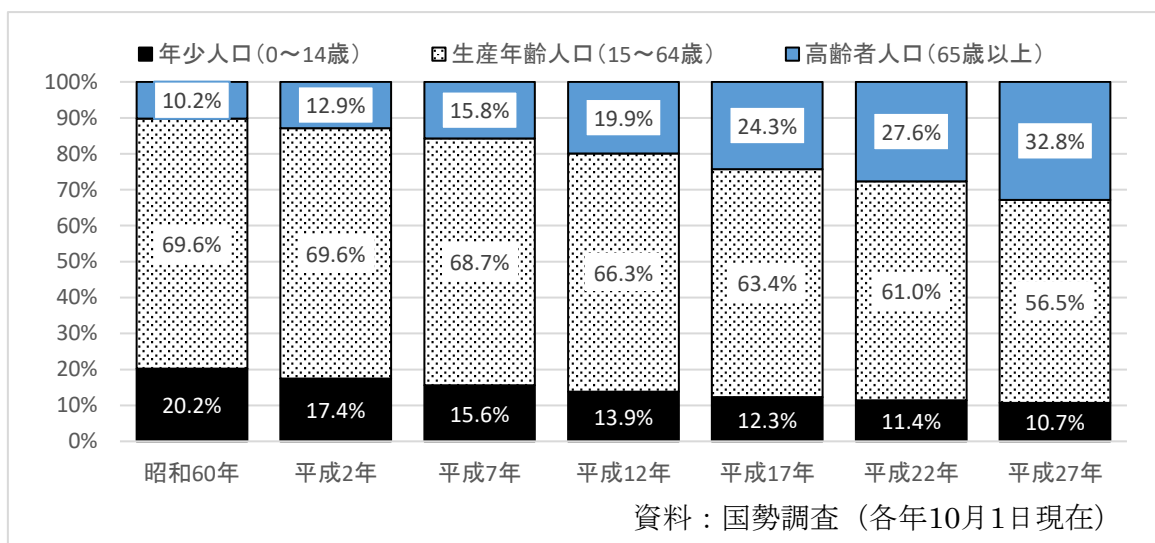
資料：住民基本台帳（各年度3月31日現在）

(2) 年齢構成

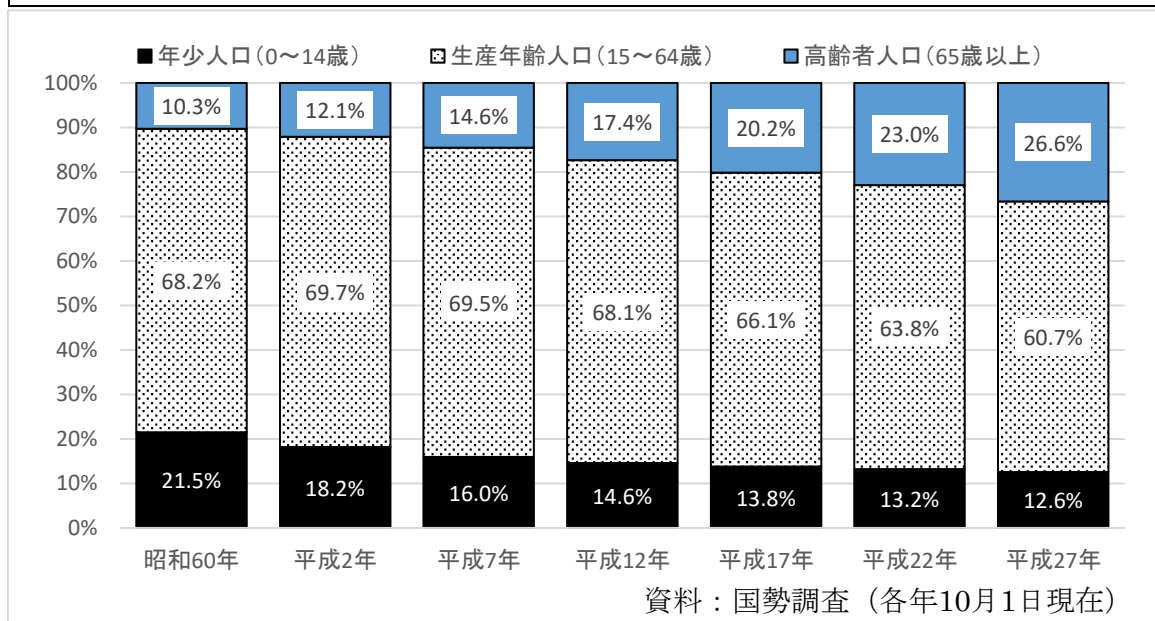
年齢階層別の人口を全国の状況と比較してみると、平成27年では、高齢者人口の割合は32.8%で、全国の26.6%よりも6.2ポイント高く、年少人口の割合は10.7%で、全国の12.6%よりも1.9ポイント低くなっています。

高齢者人口割合、年少人口割合からみると、岩見沢市は全国平均より高齢化が進んでいるまちであるといえます。

年齢階層別人口割合の推移（岩見沢市）



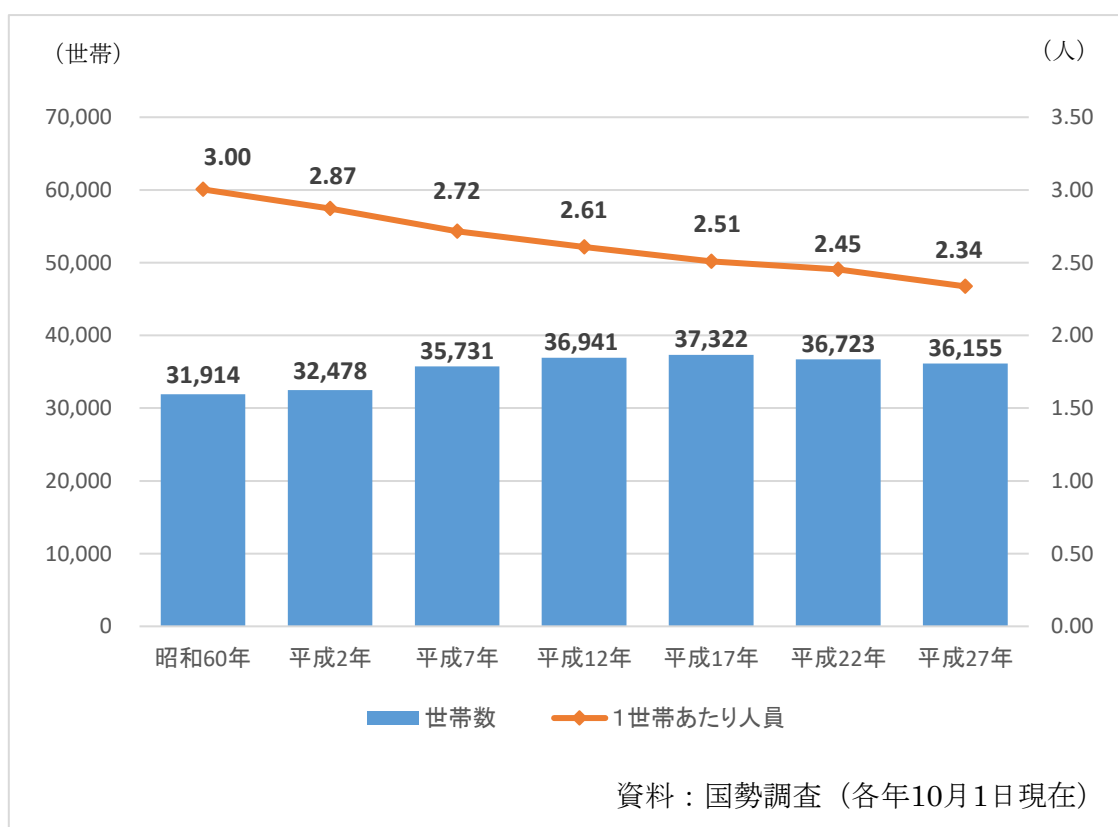
年齢階層別人口割合の推移（全国）



(3) 世帯数

世帯数は、昭和 60 年には 31,914 世帯だったものが、平成 27 年には 36,155 世帯となり、4,241 世帯増加しています。しかしながら、1 世帯あたり人員は 3.00 人から 2.34 人へと減少し、一人暮らし世帯、核家族世帯等が増えていることがうかがえます。

世帯数及び 1 世帯あたり人員

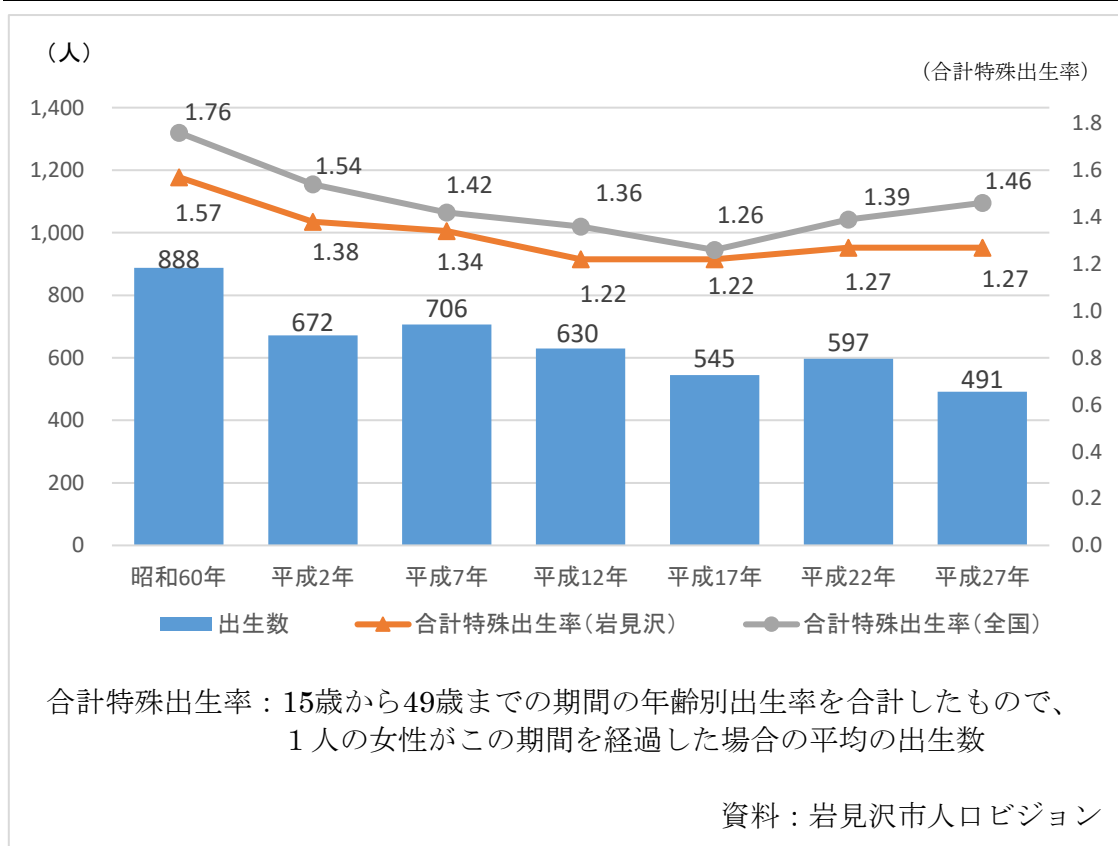


(4) 出生数及び合計特殊出生率

出生数は、昭和 60 年に 888 人だったものが、平成 27 年には 491 人となり、397 人減少しています。

また、出生率を全国の状況と比較してみると、各年とも低く、平成 27 年では、全国の 1.46 よりも 0.19 ポイント低くなっています。

出生数及び合計特殊出生率

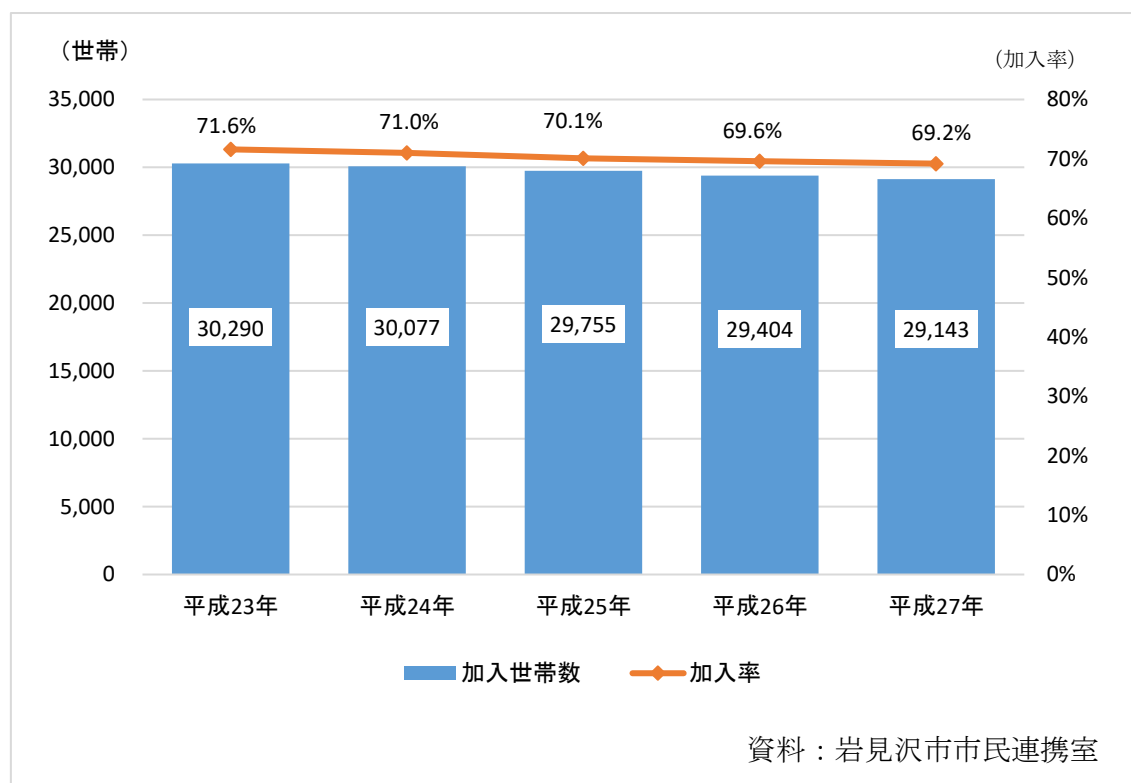


（５）町会・自治会への加入状況

町会・自治会への加入状況は全世帯の約 7 割が加入しています。

一方、町会・自治会への加入世帯数、加入割合ともに年々低下しています。

町会・自治会加入世帯数の推移



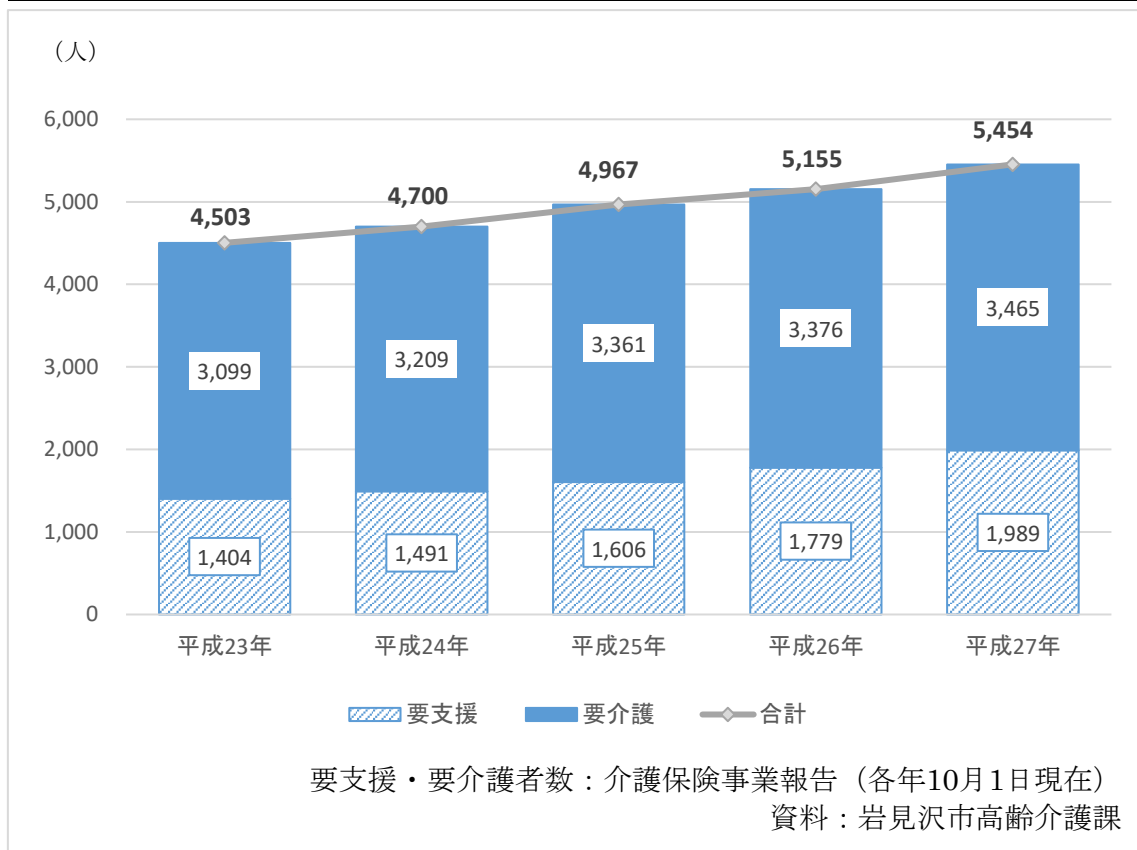
福祉サービスを必要とする人

(1) 要支援・要介護者

高齢者の増加に伴い、介護保険制度における要支援・要介護者数も年々増加しています。

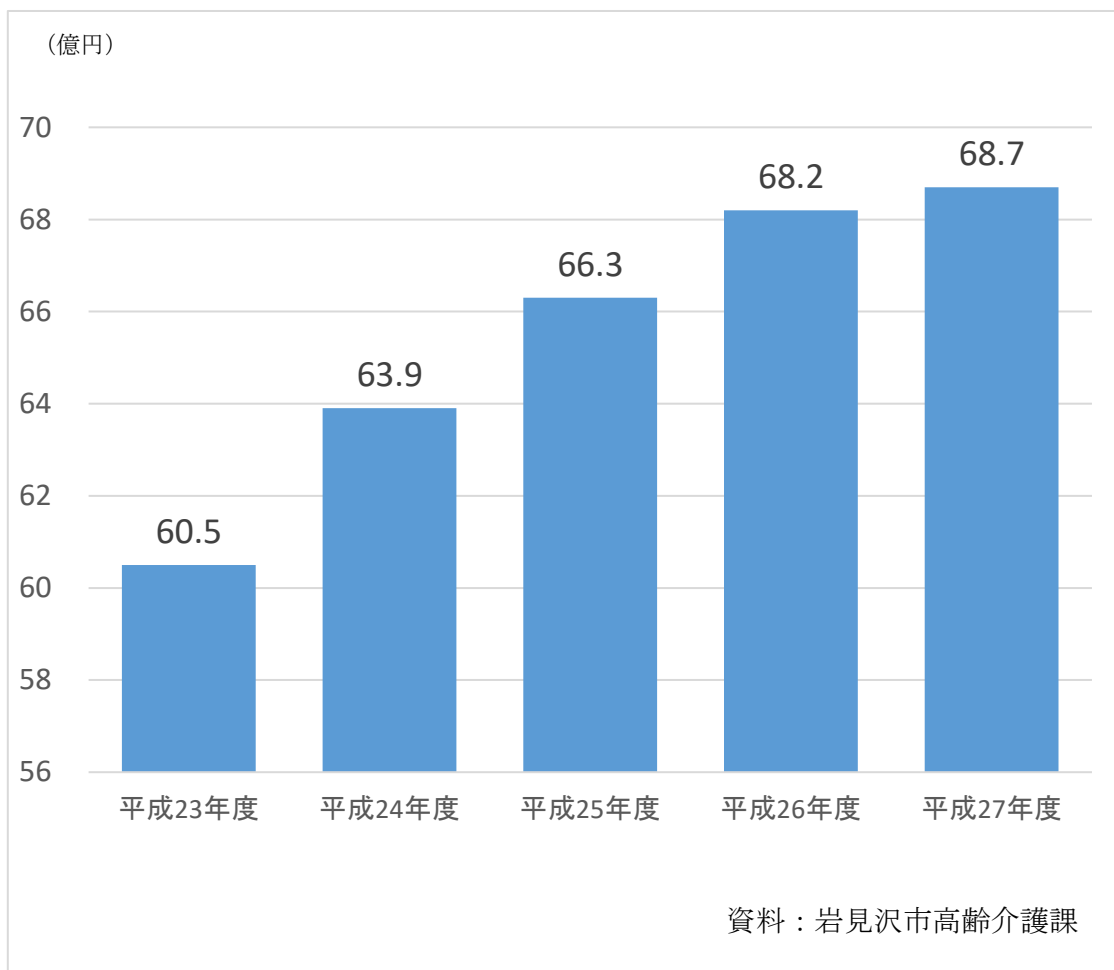
要支援・要介護者数は、平成23年には4,503人だったものが、平成27年には5,454人と、951人増加しています。

要支援・要介護者数の推移



また、要支援・要介護者の増加に伴い、介護保険サービスにかかる介護給付費は年々増加しています。平成 23 年には、60.5 億円であったのが、平成 27 年には、68.7 億円となり、8.2 億円増加しています。

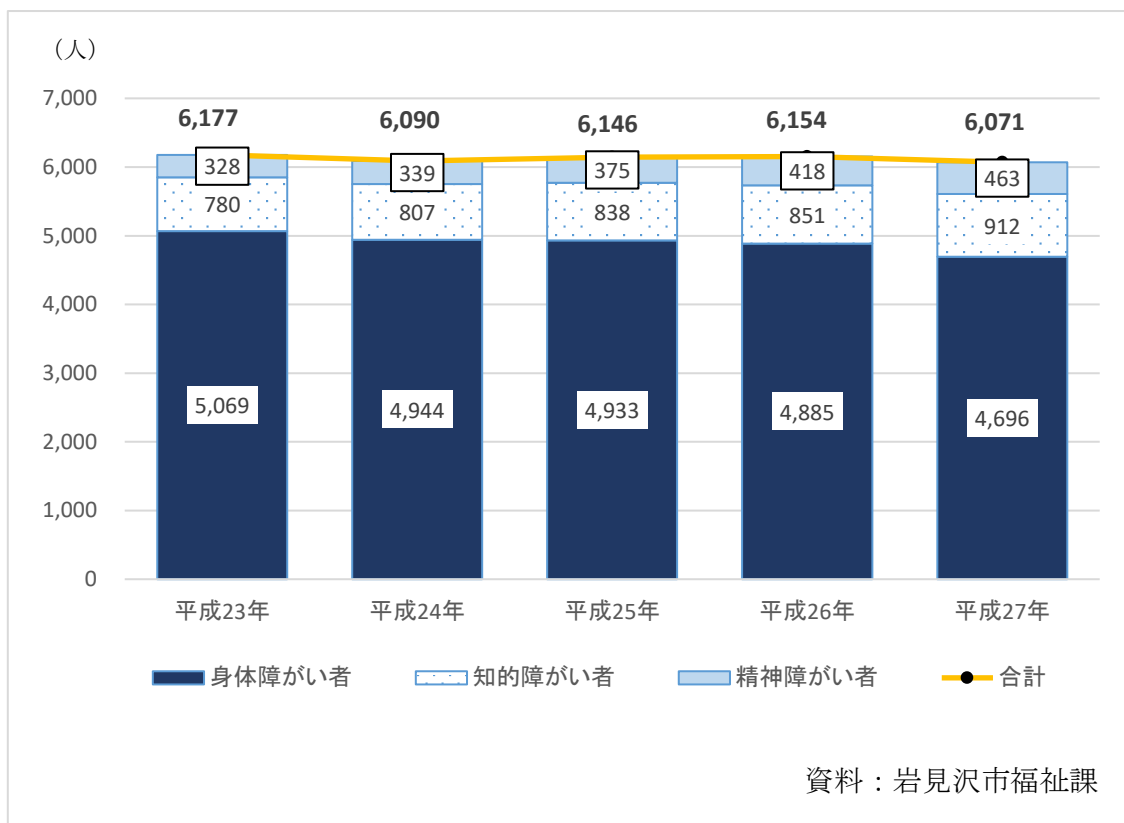
介護給付費の推移



(2) 障がい者

障がい者数（障害者手帳所持者数）は、身体障がい者は減少している一方、知的障がい者、精神障がい者は、年々増加しています。

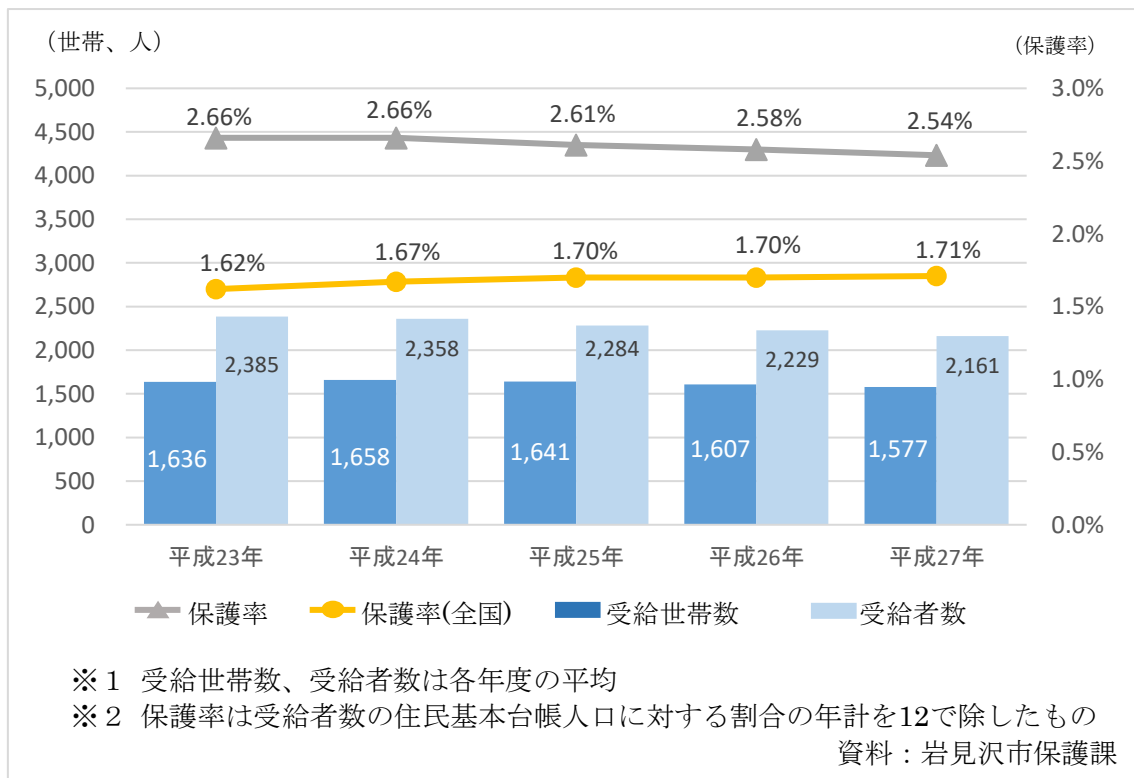
障がい者数の推移



(3) 生活保護受給者

生活保護受給者は、受給者数及び世帯数ともに、年々減少しています。保護率は、平成23年に2.66%だったものが、平成27年には2.54%と0.12ポイント低くなっています。

生活保護受給者の推移



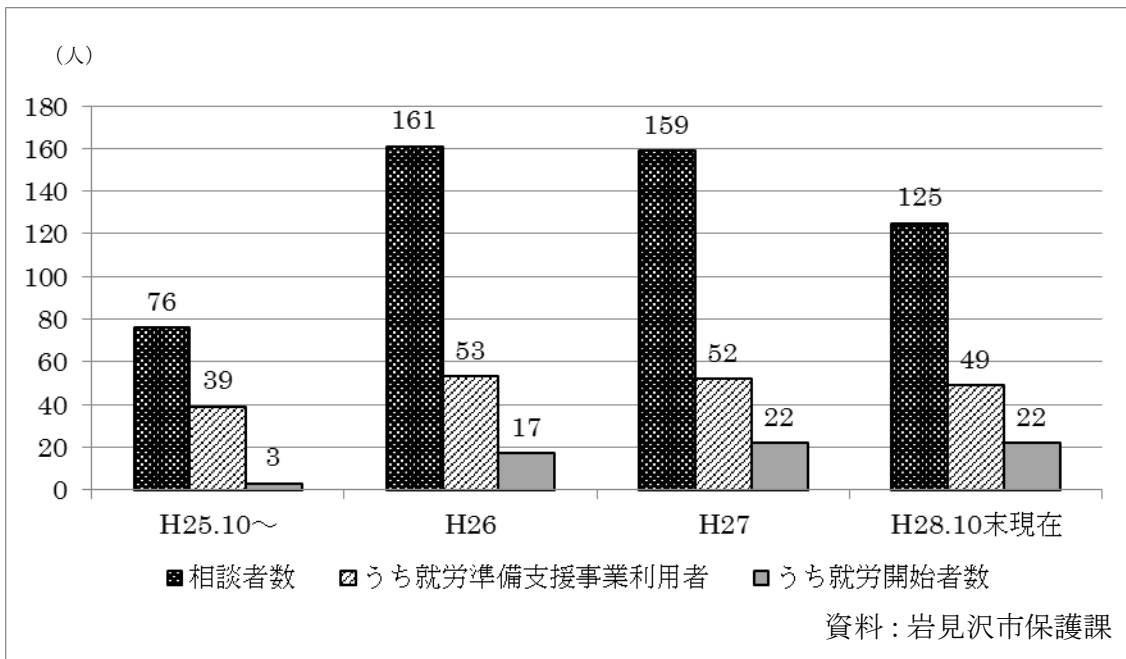
(4) 生活困窮者

経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある生活困窮者に対し、平成 25 年 10 月から全国に先駆けて国のモデル事業実施自治体として「岩見沢市生活サポートセンターりんく」を開設し、生活困窮者の自立の促進に向けて支援しています。

岩見沢市生活サポートセンターりんくでは、相談者の生活や就労に関する困りごとの解決に向けた支援や、ひきこもり、他者とのコミュニケーションが苦手、学び直しが必要な人に対し、就労に向けた訓練を実施しています。

相談者数や就労開始者数は年々増加傾向にあり、相談者の就労支援の取組を強化するため、平成 28 年度から無料職業紹介所の業務を行い、相談者に合った企業や相談者を理解した企業を開拓することで、生活困窮者の自立支援に対する取組が進んでいることがうかがえます。

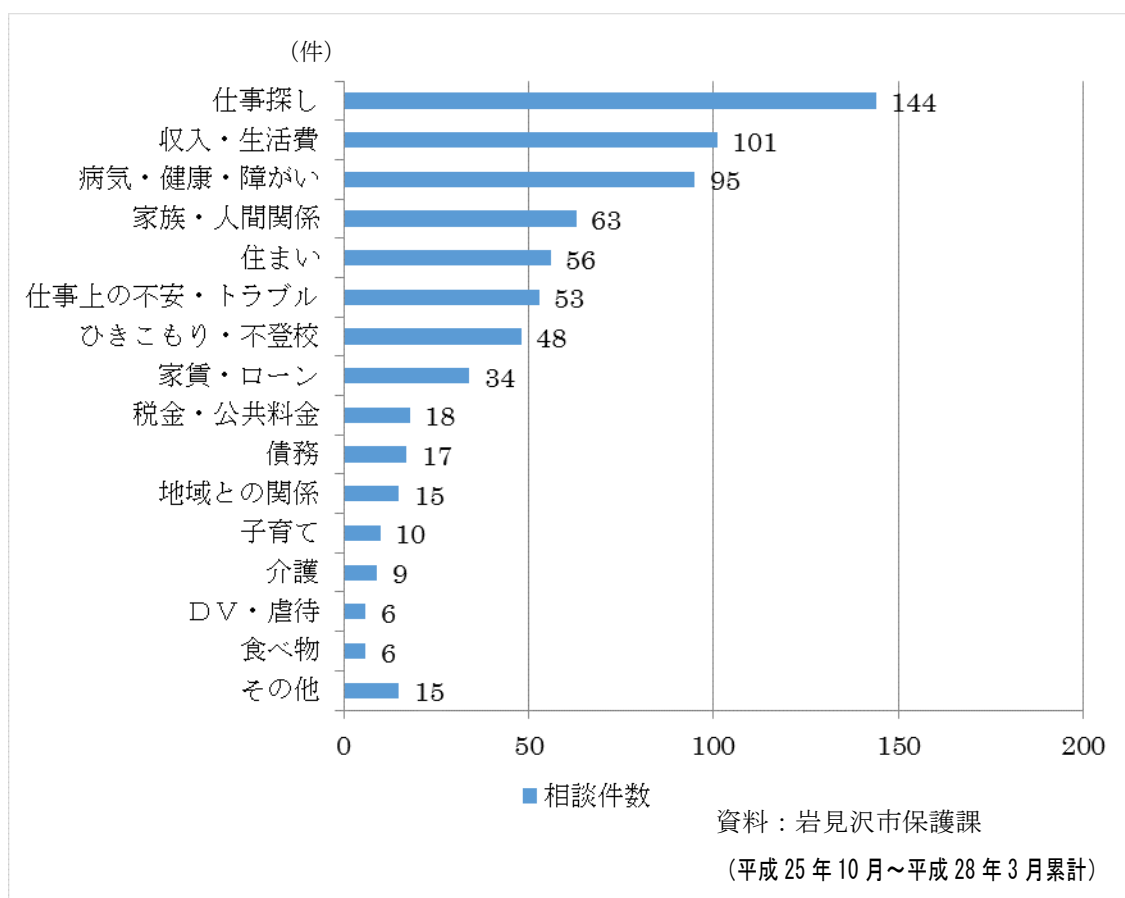
生活困窮者の相談者数（岩見沢市生活サポートセンターりんく）



また、岩見沢市生活サポートセンターりんくへの相談内容は、「仕事探し」「収入・生活費」「病気・健康・障がい」についての相談が多く、これらの相談に対応するため、無料職業紹介所として、相談者に合った企業や相談者を理解した企業を開拓し長期就労につなげています。

また、「病気・健康・障がい」について相談された方への就労支援として、福祉的就労先企業にも適切につなげています。

生活困窮者の相談内容・件数（岩見沢市生活サポートセンターりんく）



2 岩見沢市社会福祉協議会地域福祉事業の現状と課題

平成18年3月に北村・栗沢町社会福祉協議会と合併し、10年が経過した中で、この間、それぞれの地域の取組を尊重しながら、町内会、民生委員児童委員、福祉団体、ボランティア、行政など様々な機関や団体、関係者と連携し、「支え合い 共に生きる 住みよい地域づくり」の推進に努めてきました。

しかし、この間、地域社会を取り巻く環境は、少子高齢化の進行、核家族化や単身世帯の増加などにより家族間の扶助力が低下するとともに、住民相互のつながりの希薄化、価値観の多様化などを背景に大きく変化しています。

また、貧困、権利擁護、孤立死、災害時における要援護者への支援など、深刻化や多様化する生活課題が生じており、改めて現在の社会福祉協議会活動が「住民が抱える今日的な生活課題の解決につながっているか」、「誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりを使命とする社会福祉協議会の役割を果たしているのか」という点において自ら真摯に向かい合い、これからの事業や活動を考えていかなければいけません。

そのため、今後の社会福祉協議会における地域福祉の取組は、地域ニーズを的確に把握し、住民主体の支え合い活動を支援するなかで、新たな制度や生活課題に対応する助け合い活動や仕組づくりを検討しながら、地域福祉の推進に取り組む必要があります。

3 アンケート調査結果から見えてきた地域福祉の課題

平成 29 年度「社会福祉協議会アンケート調査」及び岩見沢市「平成 28 年度市民アンケート調査」結果から見えてきた地域福祉の課題を次のとおり整理しました。

(1) 困りごとや心配ごとの相談窓口について

- ① 困っていることや心配なことの相談相手としては、「家族」が 65.8%と最も高い割合を占めている一方で、「相談相手はいない」という市民が 5.0%おり、家族以外に、身近な地域で困っていることや心配なことを安心して相談できる相手が必要であることがうかがえます。

(平成 28 年度市民アンケート調査から)

- ② 住みよいまちづくりとして、今後重要だと思われるものについて、「福祉に関して気軽に相談できる窓口をつくること」が上位を占めていることから、市民が気軽に相談できる身近な福祉の相談窓口の普及や福祉に関する情報の提供が求められていることがうかがえます。

(平成 29 年度社会福祉協議会アンケート調査から)

(2) 地域について

- ① 近所付き合いについて、「会えば、あいさつする」程度の市民が 49.9%と約半数であり、「困ったときに相談したり、助け合う」、「留守や外出のとき、声をかけあう」程度の付き合いのある市民は合計で 9.4%と 1 割程度しかいないことがわかりました。さらに、「ほとんど付き合いはない」という市民も 10.4%おり、近所付き合いの希薄性といった課題があることがうかがえます。

(平成 28 年度市民アンケート調査から)

- ② 地域活動等への参加状況については、「特に地域での活動には参加していない」市民が 51.2%と半数以上であり、地域活動への参加が活発とはいえない状況であることがうかがえます。

(平成 28 年度市民アンケート調査から)

- ③ 地域において、支援が必要な人は、高齢者やその高齢者を介護している方が上位となっていることから、孤立しないよう、地域住民による見守りや地域交流活動を通じての取組が必要だとうかがえます。

(平成 29 年度社会福祉協議会アンケート調査から)

④ 地域課題として最近気になると感じていることについては、「社会からの孤立」が上位となっていることから、引きこもりや親族とは疎遠で近所との関わりがなく、支援困難な孤立者が増加しており、問題が深刻化・複雑化する前の発見や地域で支える活動等が必要となっていることがうかがえます。
(平成 29 年度社会福祉協議会アンケート調査から)

⑤ 地域福祉の状況の評価は、「進んだと思う」と「変わらない・進んでいない」が拮抗しているが、サロン団体活動者は、「とても進んだと思う」割合が高く、地域交流活動を通じて地域福祉の活性化、福祉に関する市民の意識が高まることがうかがえます。

(平成 29 年度社会福祉協議会アンケート調査から)

(3) 福祉活動を進めていく上での課題について

活動している上で特に困っていることとして、「活動者が高齢化している」が 26.5%と最も高く、次に「活動の後継者がいない」が 18.8%、「活動に関わる人が少ない」が 17.9%となっていることから、活動者の高齢化、後継者不足など「担い手の確保・育成」が深刻な問題となっている。

(平成 29 年度社会福祉協議会アンケート調査から)

(4) 様々な生活課題を抱えた方への対応について

福祉施設・事業所が連携している機関として「地域包括支援センター」、「岩見沢市社会福祉協議会」が上位となっており、連携内容として虐待、権利擁護等の対応が多く、支援困難ケースが増加していることがうかがえます。

また、独居で身寄りがない人への支援、障がい者への支援、生活困難者などが増加しており、その課題を解決するために、行政や社会福祉協議会、ボランティアなどとの連携があがっており、公的な福祉サービスだけでは補えない生活支援等の仕組みづくりが求められていることがうかがえます。

(平成 29 年度社会福祉協議会アンケート調査から)

(5) 判断能力が不十分な方への支援について

福祉施設・事業所では、市民からの相談を受けるにあたっての地域課題として、「福祉サービス」と「経済的な問題」が最も高くなっており、認知症や障がい等により福祉サービスの申請等ができない方や金銭管理が困難で生活に支障がある方など判断能力の不十分な方が増加していることがうかがえます。

(平成 29 年度社会福祉協議会アンケート調査から)

(6) 災害時における要援護者への支援について

- ① 災害時に自力で避難できない人がいたときの対応として、「その時になってみないとわからない」と考えている人が 33.3%おり、災害に対する事前の準備や日頃からの備えについての意識の強化が重要であることがうかがえます。
(平成28年度市民アンケート調査から)

- ② 地域課題として最近気になると感じている相談または感じていることとして、「災害時の備え」が上位となっており、「避難所までの距離があり移動が困難」、「介護が必要な人の避難先及び必要な物品が確保できていない」といった意見があり、対応が求められている。

(平成29年度社会福祉協議会アンケート調査から)

(7) 地域福祉を推進していくための取組みについて

- ① 住みよいまちづくりとして、今後重要だと思われるものについて「住民みんなで支える地域づくり」が最も多く、次に「福祉に関して気軽に相談できる窓口をつくること」が上位を占めていることから、地域住民の主体的な福祉活動への支援や市民が気軽に相談できる身近な福祉の相談窓口の普及や福祉に関する情報の提供が求められていることがうかがえます。
(平成29年度社会福祉協議会アンケート調査から)

- ② 地域福祉を推進していくために特に力を入れて取り組んだほうがいいと思うこととして、「除雪などのボランティア活動の活性化」が 44.0%と最も高く、次いで「在宅での介護を必要とする高齢者への支援など、高齢者福祉に関する取組み」が 40.5%、「災害時において手助けを必要とする方に対する支援に関する取組み」が 32.2%でした。ボランティアの担い手などの福祉を支える人材の育成と、支援を必要とする人への適切な支援に関する取組みが重要であるとうかがえます。

(平成28年度市民アンケート調査から)

(8) 社会福祉協議会の活動について

- ① 岩見沢市社会福祉協議会の活動内容の把握については、「地域福祉活動事業」の認知度が低いことから、周知方法や広報誌の内容等の見直しを図り、社会福祉協議会事業に対する理解の浸透を図ることが必要かどうかがあります。

また、期待することについて、「福祉に関する情報提供の充実」が最も高く、福祉に関する情報発信等といった取組みの強化が求められていることがうかがえます。

さらに「ボランティア活動など、市民活動への支援」が上位となっていることから、住民の主体的な福祉活動への支援や、身近なボランティア活動の普及・支援が必要かどうかがあります。

(平成 29 年度社会福祉協議会アンケート調査から)

- ② 岩見沢市社会福祉協議会に期待すること、特に力を入れて取り組んだ方がいいと思うこととして「地域住民の助け合い、支え合い、仲間づくりを支援する活動」が 40.4%と最も高く、次いで「心配ごと・悩みごとの相談窓口」が 29.1%、「ボランティア活動の普及・推進活動」が 23.5%となっており、地域住民の主体的な福祉活動への支援や身近な相談窓口の充実、ボランティア活動の普及といった取組みが重要であるとうかがえます。

(平成 28 年度市民アンケート調査から)

※平成 28 年度市民アンケート調査について

平成 29 年度から 5 年間を計画期間とする「岩見沢市地域福祉計画」の策定と今後の施策検討に資する基礎資料を得ることを目的として、岩見沢市が実施した下記調査結果を基に考察しています。

【調査の方法】

- 1 調査対象 平成 28 年 8 月 1 日現在岩見沢市内に在住の 18 歳以上の市民について、住民基本台帳から 3,000 人を無作為抽出し、郵送法により調査票を発送、返信用封筒により回収しました。
- 2 調査期間 平成 28 年 9 月 16 日（金）から 9 月 30 日（金）までの 2 週間

【回収状況】

標本数 3,000 件 回収数 1,472 件 回収率 49.1%

第3章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

支え合い 共に生きる 住みよい地域づくり

2 基本目標

基本理念の実現を図るため、5つの基本目標を設定し取組を進めます。

基本目標1 地域課題を発見・共有できる基盤づくり

地域に潜在している福祉課題・生活課題を早期に発見し、地域住民と一体となって課題解決につなげていく基盤づくりを目指します。

基本目標2 つながり・支え合う地域づくり

地域のつながりが希薄している中、地域では孤立者や要介護者、障がいのある人、子育て中の親、高齢者を介護している人など、様々な生活上の困難を抱えた方がいます。

支援を必要とする方々を、地域における人と人とのつながりのもと、見守りや支え合える地域づくりを目指します。

基本目標 3 地域の福祉を担う人づくり

地域活動に関心のない人の増加、地域活動や組織のリーダーの担い手不足、活動者の高齢化や後継者不足などが問題として多く上がっており、地域活動者やボランティア活動者などの人材の確保及び育成が求められています。

地域全体で子どもから高齢者まで、幅広く市民に福祉についての理解を広めながら、世代を超えた地域福祉を支える担い手づくりを目指します。

基本目標 4 安全・安心して暮らせる地域づくり

住み慣れた地域で安全で安心して暮らし続けるため、認知症や障がいなどにより判断能力に不安を抱えている人の権利擁護の支援、生活困窮者等への支援、災害時における要援護者等の支援や防災体制の強化など、関係機関と連携した支援体制づくりを目指します。

基本目標 5 地域から信頼される組織づくり

地域福祉を推進する中核的な組織としての社会福祉協議会が行う活動内容の理解を深め、日頃から市民や各関係機関と顔の見える関係づくりに努めます。

また、より一層工夫した広報紙等による積極的な PR 活動を行うとともに、新たな制度への対応、制度の狭間にある生活支援等に対応するため、行政や関係機関・団体等と連携を図り、地域から信頼される組織を目指します。

3 地域福祉活動計画の体系図

基本理念

支え合い 共に生きる 住みよい地域づくり

基本目標	事業推進項目	具体的な実施事業
基本目標1 地域課題を発見・共有できる基盤づくり	地域住民の声を反映できる課題把握と情報共有	① 地域福祉懇談会の開催
		② 地域福祉ニーズ調査
		③ 実施事業からのニーズ調査
	相談支援体制の充実	④ 心配ごと相談事業
		⑤ 民生委員児童委員との連携
		⑥ 各相談機関等との連携強化
基本目標2 つながり・支え合う地域づくり	地域住民と共に進める支え合い活動や交流活動の促進	⑦ 小地域福祉ネットワーク活動事業
		⑧ 地域福祉活動費助成事業
		⑨ 地域除排雪活動支援事業
		⑩ 除雪ボランティア派遣事業
		⑪ 地域ふれあいサロン事業
		⑫ サロン活動者情報交換会・研修交流会の開催
		⑬ 認知症サポーター養成講座の開催
		⑭ レクリエーション用具貸出事業
		⑮ 福祉団体等の活動支援
		⑯ やさしい在宅介護講習会の開催
		⑰ 男性のための料理教室の開催
		⑱ 高齢者趣味と教養・健康増進支援事業
	地域福祉への理解促進	⑲ 金婚祝賀会開催事業
		⑳ 地域福祉活動推進セミナーの開催
		㉑ 地域福祉出前講座
	ボランティアセンターの機能充実	㉒ 社会福祉功労者表彰
		㉓ ボランティアセンター運営事業
		㉔ 広報紙「おもいあい」の発行
		㉕ 各種研修事業への参加促進
		㉖ 他市町ボランティアセンター研修視察

基本目標3 地域の福祉を担う人づくり	地域を支えるボランティアの育成	㉓ 各種ボランティア養成講座の開催 ㉔ ボランティア活動者研修会・交流会の開催 ㉕ ボランティアの活動支援事業
	将来を見据えた福祉教育の推進	㉖ 学童・生徒のボランティア活動普及事業 ㉗ 児童・生徒のボランティア体験研修会の開催 ㉘ 指定地域福祉教育セミナー ㉙ 地域福祉教育推進事業
基本目標4 安全・安心して暮らせる地域づくり	地域における権利擁護の推進	㉚ 日常生活自立支援事業 ㉛ 岩見沢市成年後見支援センターの運営 ㉜ 相談・申立支援 ㉝ 市民後見人の養成 ㉞ 市民後見人の活動支援 ㉟ 成年後見制度普及啓発
	生活困窮者等への支援	㊱ 生活福祉資金貸付事業 ㊲ 特別生活資金貸付事業 ㊳ 愛情銀行緊急生活費交付事業 ㊴ 緊急食料等給付事業の調査・検討 ㊵ 法外援護事業
	災害ボランティア現地対策本部の組織整備	㊶ 災害ボランティア本部体制の整備 ㊷ 災害ボランティア研修会の開催 ㊸ 災害用資機材の整備
基本目標5 地域から信頼される組織づくり	地域福祉活動計画の進行管理	㊹ 地域福祉活動計画の進行管理
	広報活動の強化・充実	㊺ 広報紙「社協だより」の発行 ㊻ ホームページを活用した情報発信 ㊼ 社協パンフレットの作成
	共同募金運動への協力 行政や関係機関・団体との連携	㊽ 共同募金運動への協力 ㊾ 行政や関係機関・団体との連携

第4章 基本目標と具体的な取組

1 基本目標1 地域課題を発見・共有できる基盤づくり

事業推進項目 地域住民の声を反映できる課題把握と情報共有

地域住民の声を聞きながら地域の実情把握や情報を共有するなかで、公的な福祉サービスでは対応できない課題や本人しか見えない課題にも目を向けて、多様な方法により地域に潜在化するニーズ把握に努めます。

No.	事業項目	事業区分	年次計画				
	事業内容		H30	H31	H32	H33	H34
1	地域福祉懇談会の開催	新規					
	地域に出向いて懇談会を開催し、情報提供や情報交換を行い、福祉ニーズの把握に努めます。			○		○	
2	地域福祉ニーズ調査	新規					
	次期計画策定に向け、地域における福祉課題や必要とされるサービス等を把握し、課題解決に向けた地域福祉事業を推進するためニーズ調査を実施します。						○
3	実施事業からのニーズ調査	継続					
	実施事業や講座ごとにアンケート調査を実施し、ニーズに沿った事業展開、講座内容の充実を図ります。		○	○	○	○	○

事業推進項目 相談支援体制の充実

市民の日常生活上の様々な困りごとの相談に応じ、解決に向けた適切な助言援助や関係機関等と連携した相談支援体制の充実に努めます。

No.	事業項目	事業区分	年次計画				
	事業内容		H30	H31	H32	H33	H34
4	心配ごと相談事業	継続	○	○	○	○	○
	市民の日常生活上の困りごとの相談に応じ、解決に向けた適切な助言援助を行います。 地域に出向いた移動心配ごと相談所を引き続き開設します。						
5	民生委員児童委員との連携	継続	○	○	○	○	○
	民生委員児童委員の協力による所管区域での相談支援の充実を目的にふれあい相談員を委嘱し、地域における相談支援の促進を図ります。						
6	各相談機関等との連携強化	継続	○	○	○	○	○
	様々な相談に対応するため、他の相談機関等との連携を強化します。						

2 基本目標2 つながり・支え合う地域づくり

事業推進項目 地域住民と共に進める支え合い活動や交流活動の促進

身近な地域でのつながりや絆を深め、誰もが安心して暮らすことができるよう、地域住民が主体となった支え合い活動や交流活動の促進を推進します。

No.	事業項目	事業区分	年次計画				
	事業内容		H30	H31	H32	H33	H34
7	小地域福祉ネットワーク活動事業	継続	○	○	○	○	○
	地域住民による見守りや安否確認活動及び身の世話など、地域における支え合い活動を支援します。						
8	地域福祉活動費助成事業	継続	○	○	○	○	○
	地域コミュニティ活動の活性化を図るため、地域住民の主体的な福祉活動に対して、活動支援を行います。						
9	地域除排雪活動支援事業	継続	○	○	○	○	○
	自力で除排雪が困難である高齢者や障がい者等の日常生活の安全確保のため、地域のボランティアによる除排雪活動に対して活動費の支援を行います。						
10	除雪ボランティア派遣事業	継続	○	○	○	○	○
	自力で除雪が困難かつ家族や親類及び町会・自治会からの協力が得られない要援護者世帯へボランティアを派遣し、除雪支援を行います。						
11	地域ふれあいサロン事業	継続	○	○	○	○	○
	高齢者や障がい者、子育て中の親子等、外出機会の少ない方々の閉じこもり予防と安否確認、生活課題の把握等を目的に世代を超えた誰もが参加できる地域交流活動の支援及び更なる普及に努めます。						
12	サロン活動者情報交換会・研修交流会の開催	継続	○	○	○	○	○
	サロン活動に関する講話や演習、情報交換などを通して、サロン活動内容の充実と実践者同士のネットワークの構築を図ることを目的に開催します。						

No.	事業項目	事業 区分	年次計画				
	事業内容		H30	H31	H32	H33	H34
13	認知症サポーター養成講座の開催	継続	○	○	○	○	○
	認知症への正しい理解を深め、認知症高齢者を支える地域づくりを推進することを目的に養成講座を開催します。						
14	レクリエーション用具貸出事業	継続	○	○	○	○	○
	町会・自治会、ボランティア団体、地域ふれあいサロン等、地域福祉の向上に取り組む団体に対し、レクリエーション用具の貸出しを行い、地域交流の促進を図ります。						
15	福祉団体等の活動支援	継続	○	○	○	○	○
	障がい者等の福祉団体へ活動費助成を行い、団体の使命や特徴を活かした活動を推進します。						
16	やさしい在宅介護講習会の開催	継続	○	○	○	○	○
	介護などの必要な知識や技術を学び、家庭や地域において孤立することなく生活ができるようにすることを目的に開催します。						
17	男性のための料理教室の開催	継続	○	○	○	○	○
	料理を作る楽しさとバランスのとれた食事の重要性を学び、料理を通しての仲間づくり、家庭生活での自立支援を目的に開催します。						
18	高齢者趣味と教養・健康増進支援事業	継続	○	○	○	○	○
	岩見沢市老人クラブ連合会が主催する各種事業に対して助成支援を行い、高齢者が個々の技能や趣味を活かした社会参加活動を通じて、仲間づくりや生きがいの場づくりの促進を図ります。						
19	金婚祝賀会開催事業	継続	○	○	○	○	○
	結婚生活50年の節目を迎えるご夫婦を招待し、金婚祝賀会を開催します。						

事業推進項目 地域福祉への理解促進

福祉に対する幅広い知識と地域住民の主体的な取り組みへの意識の向上を図り、地域福祉活動への参加と拡充を図ることを目的としたセミナー等を開催します。

No.	事業項目	事業区分	年次計画				
	事業内容		H30	H31	H32	H33	H34
20	地域福祉活動推進セミナーの開催	継続	○		○		○
	地域を取り巻く生活課題・福祉課題の現状や課題解決に向けた取組について理解を深め、地域住民主体の福祉活動を促進することを目的にセミナーを開催します。						
21	地域福祉出前講座	継続	○	○	○	○	○
	町会・自治会をはじめとする福祉団体等からの要望に沿って、当会職員等が講師となり講座を実施し、地域住民の福祉に対する理解促進を図ります。						
22	社会福祉功労者表彰	継続	○	○	○	○	○
	当会顕彰規程に基づき、永年にわたり地域福祉の向上に寄与された個人及び団体を讃え、表彰式を開催します。						

事業推進項目 ボランティアセンターの機能充実

ボランティアに関する情報の収集と発信、ボランティア相談に対するコーディネート機能を強化し、各種研修事業への参加や各関係機関・団体と連携を図り、ボランティアセンター運営の充実に努めます。

No.	事業項目	事業区分	年次計画				
	事業内容		H30	H31	H32	H33	H34
23	ボランティアセンター運営事業	継続	○	○	○	○	○
	ボランティア活動に関する相談、コーディネート、啓発、情報提供等を行い、ボランティア活動の推進を図ります。 また、ボランティアセンター運営委員会・運営部会を開催し、各関係機関等との連携を図り、ボランティアセンター運営の充実に努めます。						
24	広報紙「おもいあい」の発行	継続	○	○	○	○	○
	ボランティア活動に関する市民の理解と関心を深めるため、ボランティア活動の紹介や活動状況について情報発信を行い、ボランティア活動への参加促進を図ります。						
25	各種研修事業への参加促進	継続	○	○	○	○	○
	全道及び空知地区におけるボランティア活動に関する研修事業への参加を促進し、ボランティアによる研究討議や交流などを通じて、ボランティア活動の推進を図ります。						
26	他市町ボランティアセンター研修視察	継続		○		○	
	ボランティアコーディネーターとしての資質向上と今後のボランティアセンター運営などについて調査研究のため、研修視察を行います。						

3 基本目標3 地域の福祉を担う人づくり

事業推進項目 地域を支えるボランティアの育成

各種ボランティア養成講座などを通して、福祉への関心と理解を深め、地域福祉活動やボランティア活動を担う市民の育成・確保に努めます。

No.	事業項目	事業区分	年次計画				
	事業内容		H30	H31	H32	H33	H34
27	各種ボランティア養成講座の開催	継続	○	○	○	○	○
	ボランティアに興味のある方を対象とした入門講座や、専門分野のボランティアを養成する講座などを開催し、新たなボランティア人材の発掘と育成に努めます。						
28	ボランティア活動者研修会・交流会の開催	継続	○	○	○	○	○
	ボランティアセンター登録団体及び個人活動者のスキルアップを目的とした研修及び活動者同士による情報交換、交流を通して、ネットワークづくりを図ることを目的に開催します。						
29	ボランティアの活動支援事業	継続	○	○	○	○	○
	ボランティア活動保険の助成やボランティア団体への活動費支援、ボランティアに関する情報提供を行い、活動の促進を図ります。						

事業推進項目 将来を見据えた福祉教育の推進

次世代を担う子どもたちの福祉・ボランティアに対する関心と理解を高めるため、学校や教育委員会、福祉関係者と連携を図りながら、様々な福祉体験やボランティア活動などの福祉教育の取組を推進します。

No.	事業項目	事業区分	年次計画				
	事業内容		H30	H31	H32	H33	H34
30	学童・生徒のボランティア活動普及事業	継続	○	○	○	○	○
	児童・生徒の社会福祉への関心と理解を高め、実践活動によりボランティアの心と社会連携の精神を養うことを目的に、各学校における福祉教育のボランティア活動支援及び協力を行います。						
31	児童・生徒のボランティア体験研修会の開催	継続	○	○	○	○	○
	児童・生徒を対象に、福祉やボランティア活動の理解を深めることを目的に、様々な体験研修会を開催します。						
32	指定地域福祉教育セミナーの開催	継続	○	○	○	○	○
	福祉教育に関する今後の在り方や方向性等について研修・協議を行い、福祉教育の充実を図ることを目的に、教育関係者向けのセミナーを開催します。						
33	地域福祉教育推進事業	継続	○	○	○	○	○
	地域や学校における福祉学習の要請に応じ、障がい当事者及びボランティアを講師派遣し、効果的な福祉学習を実施することで、障がいやボランティアに対する理解を深めるとともにノーマライゼーション理念の普及に努めます。						

4 基本目標 4 安全・安心して暮らせる地域づくり

事業推進項目 地域における権利擁護の推進

誰もが地域で安心して暮らし続けることを支えるため、日常生活自立支援事業と成年後見制度の利用支援を一体的に行い、要支援者の生活状況や判断能力に応じた切れ目のない包括的な支援を展開し、地域における権利擁護支援体制の構築を進めます。

また、市民後見人の養成講座を開催し、地域における新たな担い手づくりを進めるとともに、広く市民に対する成年後見制度の周知や理解促進に向けた普及や啓発を行います。

No.	事業項目	事業区分	年次計画				
	事業内容		H30	H31	H32	H33	H34
34	日常生活自立支援事業	継続	○	○	○	○	○
	認知症や知的障がい・精神障がいなどにより、判断能力に不安のある方に対して、福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理などを行うことで、自立した地域生活を送ることができるよう支援します。						
35	岩見沢市成年後見支援センターの運営	継続	○	○	○	○	○
	認知症や知的障がい・精神障がいなどにより、判断能力が十分でない方が、成年後見制度を円滑に利用することができるよう支援を行い、成年後見支援センターの適切な運営を行います。						
36	相談・申立手続支援	継続	○	○	○	○	○
	成年後見制度の利用や家庭裁判所への申立手続に関する相談に対応します。						
37	市民後見人の養成	継続	○	○	○	○	○
	市民後見人を養成するため、養成講座を開催します。						
38	市民後見人の活動支援	継続	○	○	○	○	○
	市民後見人の活動が適切かつ安心して行えるよう支援します。						
39	成年後見制度普及啓発	継続	○	○	○	○	○
	成年後見制度に対する普及啓発を図り、潜在化しているニーズの発掘と制度の利用促進を図ります。						

事業推進項目 生活困窮者等への支援

低所得世帯や障がい者世帯、高齢者世帯等を対象に必要な資金の貸付と相談支援を行い、民生委員児童委員等と連携のもと、世帯の経済的自立や生活意欲の助長促進を図ります。

また、生活困窮が想定される世帯に対して、岩見沢市生活サポートセンターりんく、市保護課及びハローワーク等との連携を強化し、生活の安定・自立に向けた支援を行います。

No.	事業項目	事業区分	年次計画				
	事業内容		H30	H31	H32	H33	H34
40	生活福祉資金貸付事業	継続	○	○	○	○	○
	他の貸付を受けることができない、低所得者や障がい者、高齢者の世帯に対し、生活の安定を図るため、資金の貸付を行います。						
41	特別生活資金貸付事業	継続	○	○	○	○	○
	冬期間も安心して生活するために、燃料費等の貸付を行います。						
42	愛情銀行緊急生活費交付事業	継続	○	○	○	○	○
	緊急かつ一時的に生活の維持が困難になった世帯に対し、生活の安定と福祉の向上を図るため、当会独自の交付（貸付）支援を行います。						
43	緊急食料等給付事業の調査・検討	検討	調査 検討				
	緊急的かつ一時的に生活に必要な食料等が確保できなくなり、生命が脅かされるおそれがある世帯に対し、食料等の現物を給付することにより、生活再建に向けた支援事業を調査・検討します。						
44	法外援護事業	継続	○	○	○	○	○
	生活保護申請から決定までの生活つなぎ資金の貸付及び金銭不所持者等の送還旅費を市福祉事務所を通じて交付します。						

事業推進項目 災害ボランティア現地対策本部の組織整備

市民の防災意識の向上と災害発生時に速やかに災害ボランティアを受け入れる組織体制の整備を行い、平常時から、岩見沢市や北海道社会福祉協議会、関係機関、ボランティア等と連携を強化し、災害時におけるボランティア活動の円滑な実施に向けた体制を整備します。

No.	事業項目	事業区分	年次計画				
	事業内容		H30	H31	H32	H33	H34
45	災害ボランティア本部体制の整備	新規					
	災害ボランティア対策本部を円滑に立ち上げるために、マニュアルに基づいた設置訓練を実施します。			○		○	
46	災害ボランティア研修会の開催	新規					
	市民の防災意識の向上と災害時におけるボランティアの確保と資質向上を図ります。		○		○		○
47	災害用資機材の整備	新規					
	赤い羽根共同募金からの助成等を活用し、災害ボランティア対策本部の運営に必要な資機材の整備に取り組めます。		○	○	○		

5 基本目標 5 地域から信頼される組織づくり

事業推進項目 地域福祉活動計画の進行管理

地域福祉活動計画の進行管理については、P・D・C・Aサイクルを活用し、各事業の効果や改善点を明らかにし、次年度以降の取組に反映させます。事業評価は毎年度実施し、必要に応じて事業の見直し等に取り組めます。

No.	事業項目	事業区分	年次計画				
	事業内容		H30	H31	H32	H33	H34
48	地域福祉活動計画の進行管理 地域生活福祉部会において、計画の進行管理を行います。	新規	○	○	○	○	○

※P・D・C・Aサイクルとは

計画（Plan）をたて、それを実行（Do）し、その実行した結果を評価（Check）して、さらに計画の見直し（Action）を行う、一連の流れをいいます。



事業推進項目 広報活動の強化・充実

市民の地域福祉に関する理解がより深まるよう、社協だよりやホームページなどでの広報・周知を強化し、地域福祉活動への参加促進を図り、市民から信頼され支持される組織づくりに努めます。

No.	事業項目	事業区分	年次計画				
	事業内容		H30	H31	H32	H33	H34
49	広報紙「社協だより」の発行	継続	○	○	○	○	○
	地域福祉活動の取組について、広く市民に情報発信し理解を得るため「社協だより」を発行します。また、わかりやすい紙面の工夫や内容の充実を図ります。						
50	ホームページを活用した情報発信	継続	○	○	○	○	○
	社会福祉協議会事業の取組みや各種講座の開催などの情報をいち早く情報発信を行います。						
51	社協パンフレットの作成	新規	作成	○	○	○	○
	より身近に社会福祉協議会を感じてもらえるようパンフレットを作成し、社会福祉協議会の役割と活動の理解促進を図ります。						

事業推進項目 共同募金運動への協力

共同募金は、社会福祉協議会の地域福祉事業や市内の福祉施設、福祉団体など様々な活動や運営を支える貴重な財源として活用されており、今後とも事務局を担う立場として、北海道共同募金会と連携しながら共同募金運動の推進に取り組めます。

No.	事業項目	事業区分	年次計画				
	事業内容		H30	H31	H32	H33	H34
52	共同募金運動への協力	継続					
	共同募金の趣旨や仕組みに対する理解を市民に促し、北海道共同募金会と連携しながら共同募金運動の推進に取り組めます。		○	○	○	○	○

事業推進項目 行政や関係機関・団体との連携

地域における多様な生活課題や福祉ニーズに応えるため、行政や関係機関等と積極的に意見交換や情報の共有などの連携を図り、地域福祉の推進に取り組めます。

資料編

1 地域福祉活動計画策定の取組み経過

（１）地域福祉活動計画の策定体制

計画策定のための組織は、計画策定から評価・見直しまで関わることになることから、当会理事で構成する地域生活福祉部会において、策定に取り組みました。

また、計画策定にあたっては、岩見沢市地域福祉計画と整合性を図るため、岩見沢市健康福祉部福祉課総務グループ担当主査にオブザーバーとして出席していただきました。

（２）計画策定の経過

	開催日	主な内容
第1回	平成29年7月26日	・地域福祉活動計画策定の背景 ・計画の期間 ・計画策定方法、スケジュール ・岩見沢市地域福祉計画との関連について ・岩見沢市社会福祉協議会の現状について ・岩見沢市の概況について ・アンケート調査の実施（案）について
	平成29年8月4日～ 8月18日	・地域福祉活動計画策定に係るアンケート調査の実施
第2回	平成29年10月19日	・岩見沢市社会福祉協議会の課題について ・アンケート調査の結果報告について ・基本目標（案）について
第3回	平成29年12月22日	・事業推進項目（案）について ・具体的な実施事業（案）について
第4回	平成30年2月14日	・地域福祉活動計画素案について

2 地域福祉活動計画策定に係る委員名簿

(敬称略)

No.	職 名	氏 名	備 考
1	部 会 長	梅 田 絹 子	岩見沢市民生委員児童委員協議会会長
2	副部会長	藤 田 政 利	学識経験者
3	委 員	石 垣 紀 明	岩見沢市町会連合会会長
4	委 員	春 木 芳 則	岩見沢市町会連合会副会長
5	委 員	三 宅 睦 男	岩見沢市身体障がい者福祉協会会長
6	委 員	内 海 泰 子	岩見沢市ボランティアセンター長
7	委 員	山 本 博 光	岩見沢市老人クラブ連合会会長
8	委 員	吉 田 栄 次	学識経験者

オブザーバー	小笠原 真 希	岩見沢市健康福祉部福祉課総務グループ 担当主査
--------	---------	----------------------------

3 地域福祉活動計画策定に係るアンケート調査の概要について

地域福祉活動計画の策定にあたり、市内の福祉施設、関係機関、団体等で日頃の業務及び活動で感じている福祉課題や岩見沢市社会福祉協議会に対する意見等を把握することにより、計画策定と今後の施策検討に資する基礎資料を得ることを目的として実施しました。

1 調査対象

(1) 福祉施設・事業所

【高齢者分野】

施設等種別	施設数
地域包括支援センター	4 か所
居宅介護支援事業所	2 1 か所
介護老人福祉施設	5 か所
介護老人保健施設	3 か所
老人デイサービスセンター	2 7 か所
小規模多機能型居宅介護事業所	2 か所

【障がい分野】

施設等種別	施設数
施設入居者生活介護	4 か所
指定相談支援事業所	1 2 か所

(2) ボランティア団体・福祉団体・地域ふれあいサロン

団 体	団体数
ボランティア団体	2 6 団体
福祉団体	8 団体
地域ふれあいサロン	2 6 団体

2 調査期間

平成29年8月4日（金）から8月18日（金）まで

3 調査回答率

	調査数	回答数	回答率
福祉施設・事業所	7 8 か所	4 5 か所	5 8 %
ボランティア団体・福祉団体・ 地域ふれあいサロン	6 0 団体	5 1 団体	8 5 %

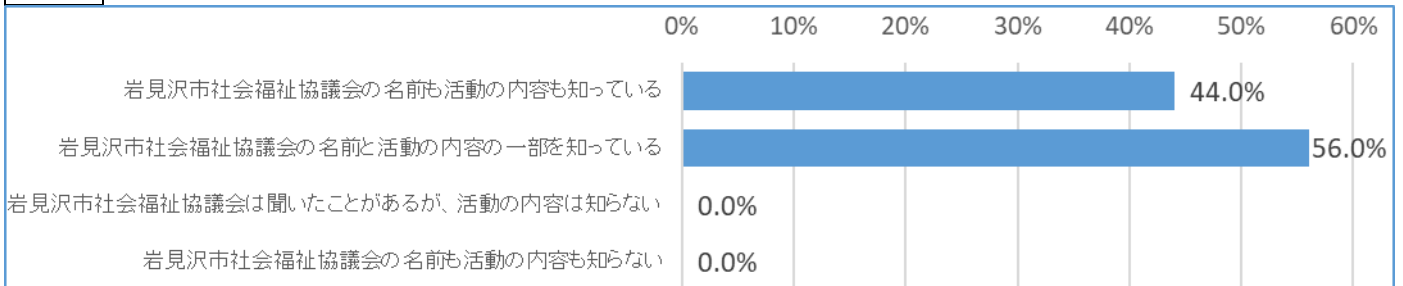
アンケート調査結果（福祉施設・事業所）

1 岩見沢市社会福祉協議会について

問1 岩見沢市社会福祉協議会をご存知ですか。

「岩見沢市社会福祉協議会の名前と活動の内容の一部を知っている」が56%、次に「岩見沢市社会福祉協議会の名前も活動の内容も知っている」が44%となっており、回答した施設すべてで名前と活動内容（一部を含む）を知っている状況である。

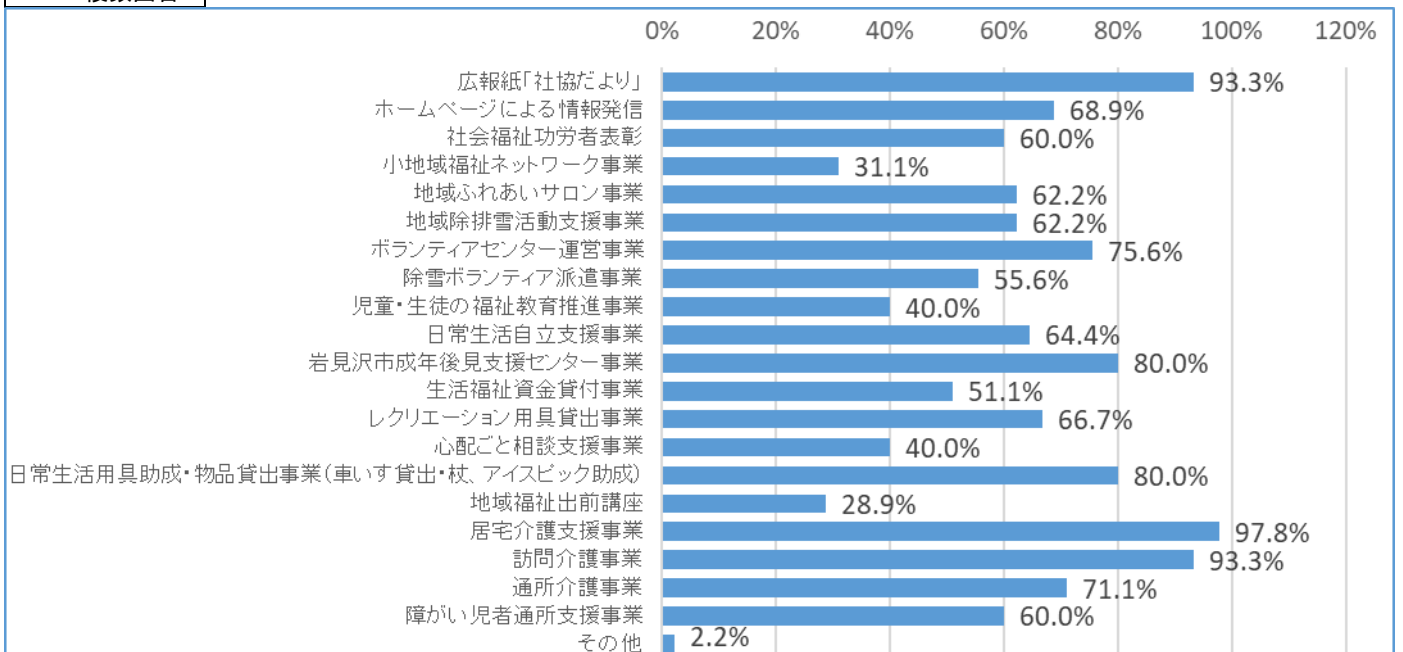
N=45



問2 問1で「1 岩見沢市社会福祉協議会の名前も活動の内容も知っている」、「2 岩見沢市社会福祉協議会の名前と活動の内容の一部を知っている」と答えた方に伺います。あなたは、岩見沢市社会福祉協議会のどのような活動をご存知ですか。

岩見沢市社会福祉協議会の活動を知っている状況として「居宅介護支援事業」が97.8%と最も高く、次に「広報誌 社協だより」と「訪問介護事業」が93.3%となっている。

N=45 複数回答

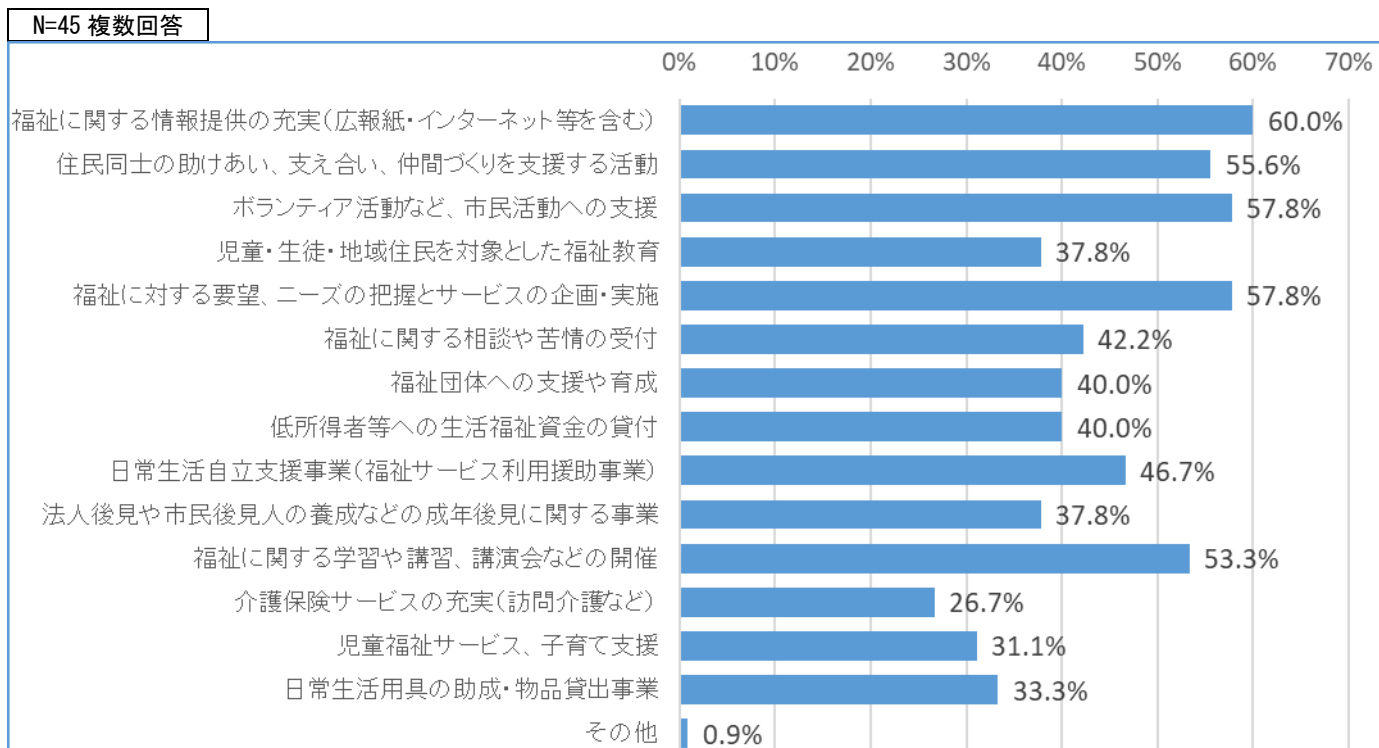


【その他】

- ・相談支援事業

問3 岩見沢市社会福祉協議会に、特にどのようなことを期待しますか。

岩見沢市社会福祉協議会に期待されていることについて、「福祉に関する情報提供の充実（広報紙・インターネット等を含む）」が60%と最も高く、次に「ボランティア活動など、市民活動への支援」と「福祉に対する要望、ニーズの把握とサービスの企画・実施」が57.8%となっている。



【その他】

- ・地域福祉の充実
- ・ヘルパー養成事業
- ・介護職員を目指す人材の確保と支援

【課題】

回答したすべての福祉施設・事業所で岩見沢市社会福祉協議会の名称と活動内容（一部を含む）を知っている状況であるが、活動内容の把握については、「地域福祉活動事業」の認知度が低いことから、周知方法や広報誌の内容等の見直しを図り、社会福祉協議会事業に対する理解の浸透を図ることが必要だとうかがえます。

また、期待することについて、「福祉に関する情報提供の充実」が最も高く、福祉に関する情報発信等といった取組の強化が求められていることがうかがえます。

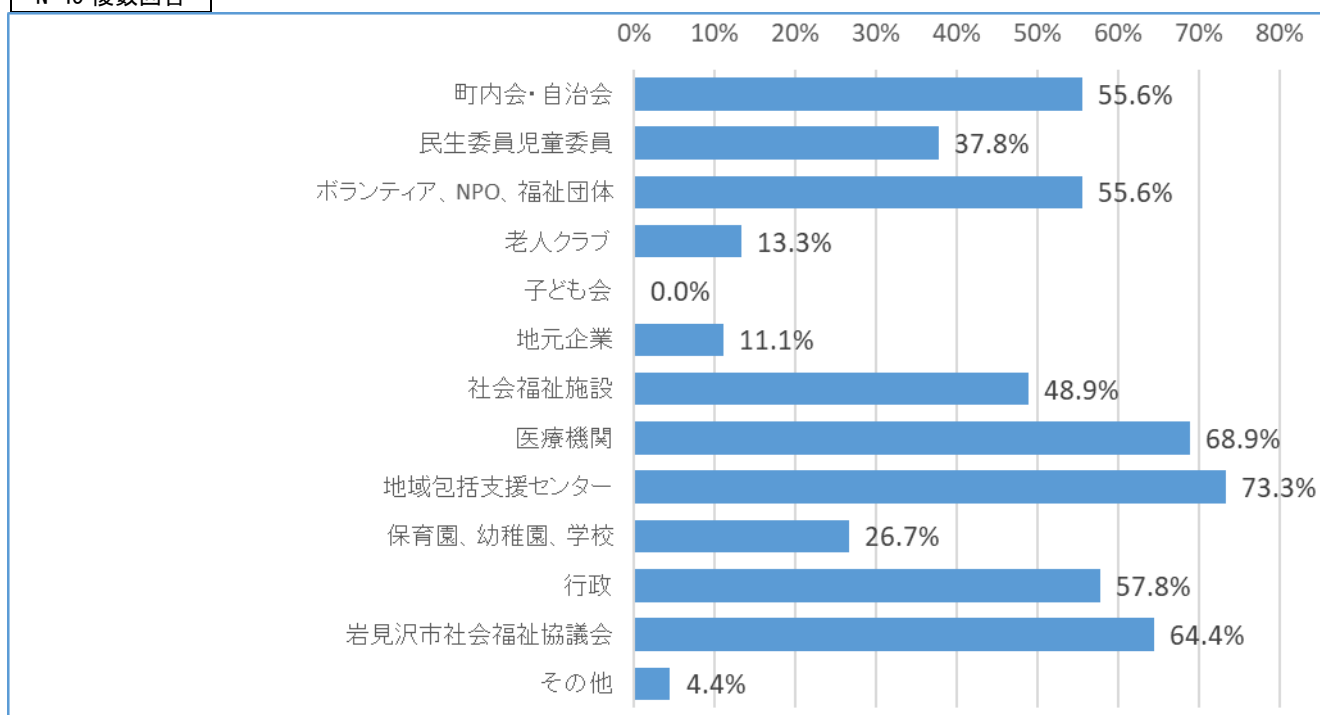
さらに「ボランティア活動など、市民活動への支援」が上位となっていることから、住民の主体的な福祉活動への支援や、身近なボランティア活動の普及・支援が必要だとうかがえます。

2 施設・事業所について

**問4 貴施設・事業所では、現在主にどのような機関・団体等と連携していますか。
また、主に連携している（連携したを含む）内容を具体的に回答欄にご記入ください。**

福祉施設・事業所が連携している機関・団体等については、「地域包括支援センター」が73.3%と最も高く、次に「医療機関」が68.9%、「岩見沢市社会福祉協議会」が64.4%となっている。

N=45 複数回答



連携している主な内容は次のとおりである

(1)地域包括支援センター

- ・虐待、権利擁護等の支援困難ケースの相談・連携
- ・権利擁護ケースの対応について連携
- ・介護サービスに係る利用者、相談者の情報提供・共有
- ・介護保険と福祉サービスの併用利用の相談

(2)医療機関

- ・介護サービス利用者に対する入退院時の連携及び情報交換
- ・緊急時の対応や通院時の相談等
- ・医療・福祉関係者の会合への参加
- ・地域に住んでいる要支援者、要介護者へのサービス利用の紹介等
- ・医療機関の連携室、ソーシャルワーカーと連携し福祉サービスの利用支援

(3)岩見沢市社会福祉協議会

- ・利用者の中に日常生活自立支援事業を利用している方がおり、協力
- ・金銭管理の依頼、成年後見制度等の相談
- ・社協のケアマネージャーやヘルパーの利用者についての連携
- ・生活福祉資金貸付事業の利用・相談

(4)行政

- ・介護保険、生活保護、障がい福祉との連携
- ・介護認定に係る業務、住宅改修、福祉用具購入、難病支援等
- ・通所児童の情報共有や、ケース会議等での関わり
- ・困りごとの相談

問5 現在、貴施設・事業所を運営する上でどのような課題を抱えていますか。 (自由記載)

(1)人材（職員・ボランティア）不足 12 件

①	人材不足（5 件）
②	介護職員の不足（4 件）
③	ボランティア不足（2 件）
④	保育士の不足（1 件）

(2)制度にあてはまらない方、身寄りがいない方等への対応 7 件

①	身寄りがいない利用者への支援。
②	身寄りのない人の受け入れ。
③	独居で身寄りのない人への支援。（低所得者）
④	生活困難者、家族やキーパーソンの病気や障がい、障がいの特質（精神疾患など）による対応の困難さ、キーパーソンをもたない利用者で後見人制度も利用できない事例など。
⑤	在宅で独居生活をされている障がい者の方々が、ほんとうに困っていることには、ヘルパー利用（居宅介護）が出来ないことも多い。
⑥	制度上においては、出来ること、出来ないことが定められているが、判断がつかないものが多い。（例：家事援助、身体介助等のサービス別もあり、また、時間が30分以上の為に利用できない等）
⑦	制度にあてはまらない相談への対応、見守り、傾聴（話し相手）、単発の生活支援等。

(3)事業所・介護サービスの周知・広報 6件

①	地域住民への周知がなかなか進まない。事業所の特性を簡単に説明することができない。(小規模多機能がわかりにくい)
②	相談支援事業所というものがあることが障がい児の親などに知られていないことが多い。
③	デイサービスや介護サービス等の受け方が地域住民に広く浸透していない。
④	地域包括支援センターの活動、役割の周知と理解。
⑤	介護サービスの利用を求めている方にデイサービスを知ってもらうための方法。
⑥	共生型事業についての問い合わせについて。

(4)地域・関係団体との連携 5件

①	地域住民を支えるうえで、地域住民・民生委員との関わりや連携をしたいと考えています。
②	地域住民と関わる機会が少ない。
③	町内会や民生委員児童委員との連携がむずかしい。
④	介護と医療の連携がむずかしい。
⑤	他機関と連動した円滑なサービス提供が課題。

(5)利用者の確保 4件

①	利用者の減少。
②	利用者の減に伴う利用者の確保など。
③	新規での相談が少ない。
④	利用率向上につながる工夫や対策。

(6)障がい者の雇用先・入所先の確保 3件

①	障がい福祉サービスや障がい者雇用枠を利用しての求職。(雇用先が少なく困っている)
②	障がい者、グループホームが足りない事による地域移行が出来ないとの相談が多い。
③	障がい者の入居施設が足りないとの相談が多い。

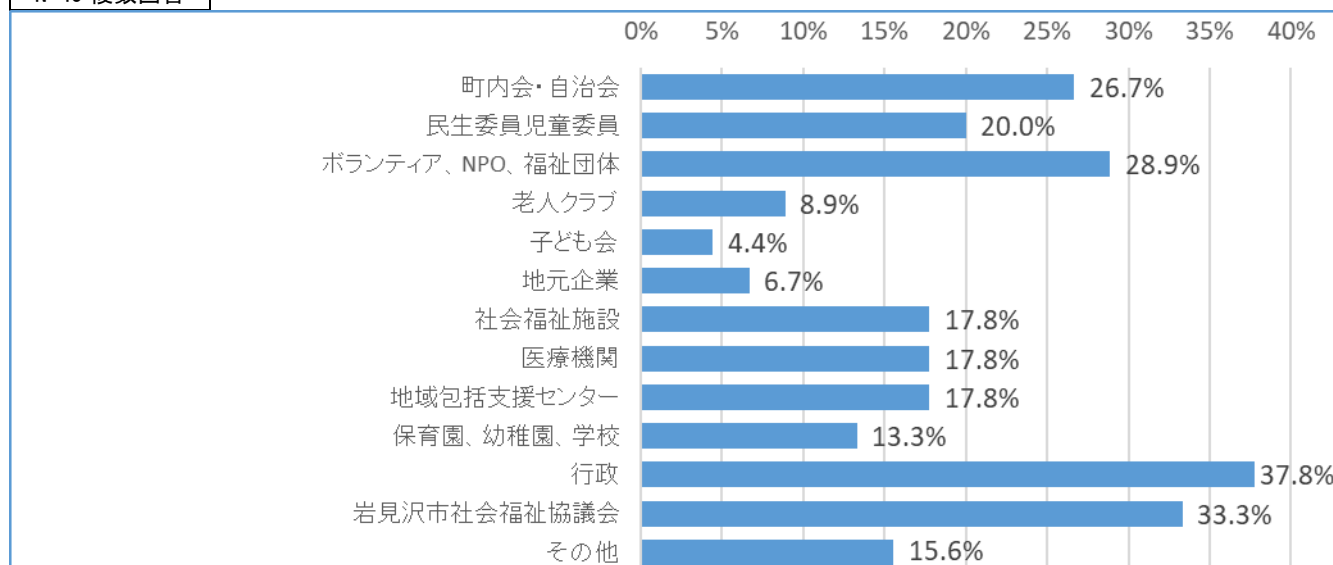
(7) その他 6件

①	施設の老朽化。
②	設備・建物の老朽化。
③	レクリエーションの内容。
④	赤字運営。
⑤	利用者の重度化。
⑥	地域柄、人口の減少、特に冬期間は独居の認知症高齢者の一人暮らしが困難なため、施設入所による町離れが多い。

問6 問5でお答え頂いた課題を解決するために、他のどのような機関・団体等と連携したいですか。また、主に連携したい内容を具体的に回答欄にご記入ください。

福祉施設・事業所がこれから連携したい機関・団体等について、「行政」が37.8%と最も高く、次に「岩見沢市社会福祉協議会」が33.3%、「ボランティア・NPO・福祉団体」が28.9%となっている。

N=45 複数回答



連携したい主な内容は次のとおりである。

(1)行政

- ・行政が毎月、各居宅介護事業所から受け入れ可能人数の報告を受け、担当件数が少ないところに優先的に利用者を紹介して欲しい
- ・介護職員が著しく不足傾向にあるため、地域全体で担い手の育成・確保への取組
- ・制度の狭間にある、生活しづらさを持つ人への対応
- ・就労支援の場を設けて欲しい

(2)岩見沢市社会福祉協議会

- ・今後のボランティア不足が考えられるので募集時等の協力を願いたい
- ・ボランティアを充実させたいので紹介してほしい
- ・地域福祉に関する研修会の開催
- ・密な関係をつくり連携していきたい

(3)ボランティア・NPO・福祉団体

- ・ボランティア不足の時は、協力願いたいので、連携していきたい
- ・ボランティアを募集したい
- ・足が不自由でゴミだしのみ出来ないとのことで、朝にヘルパーさんを頼んだところ、5分で終わる仕事には制度が使えず自費と言われたとのこと。前日にゴミを出せない等、町内会により異なるようです。地域のボランティアさん等をお願いできたらいいと思う
- ・関係づくり、情報交換のために定期的に参加できる集いの催しなど

(4)町内会・自治会

- ・デイサービス利用者は地域で生活しているため、デイサービス利用以外に地域の住民等との連携
- ・町内会とつながりを構築し、地域住民と交流する機会を増やしたい
- ・町内会等へ貢献できる活動を行い、ボランティア不足時に協力してもらいたい
- ・地域に出向き「デイサービスとはどのような場所なのか」「介護サービスの受け方」等、パンフレットを通して説明をしたり、介護予防につながる体操やレク体験等を提供し、地域への理解を深めていきたい

【課題】

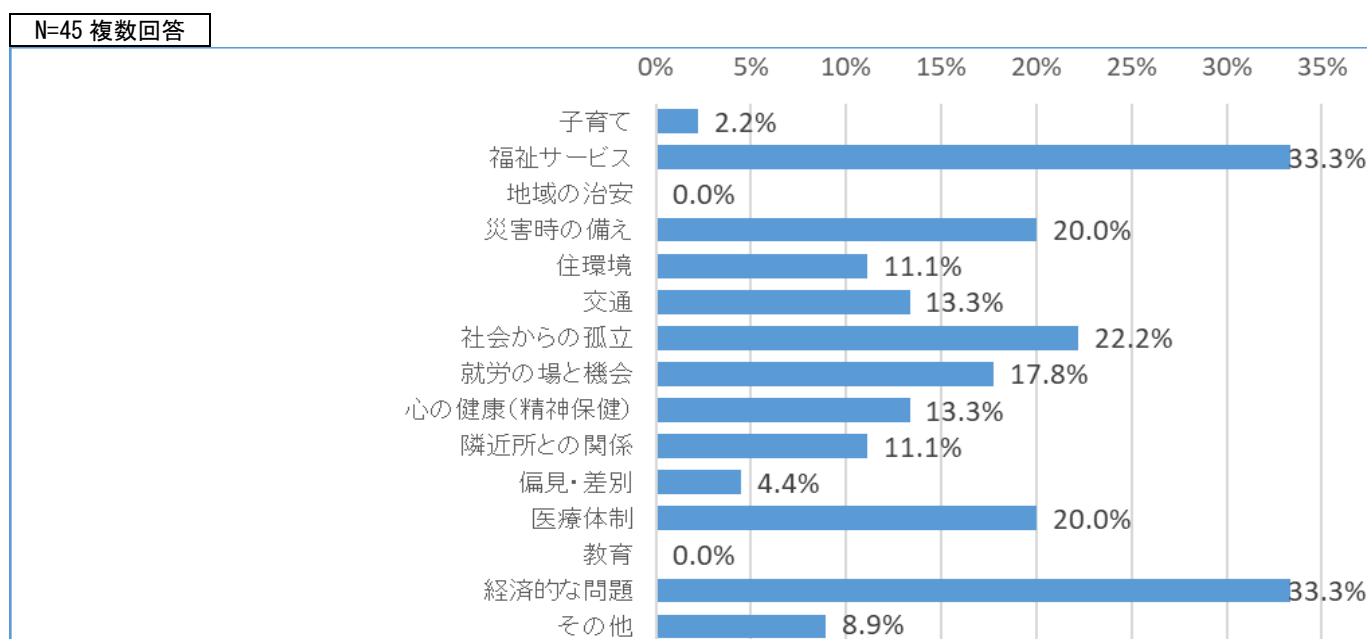
連携している機関として「地域包括支援センター」、「岩見沢市社会福祉協議会」が上位となっており、連携内容として虐待、権利擁護等の対応が多いことから、支援困難ケースが増加していることがうかがえます。

また、独居で身寄りがない人への支援、障がいの特質による対応の困難、生活困難者など、制度にあてはまらない生活課題への対応が増加しており、その課題を解決するために、行政や社協、ボランティアなどとの連携があがっており、公的な福祉サービスだけでは補えない生活支援等の仕組づくりが求められていることがうかがえます。

3 施設・事業所が関わる地域について

問7 市民からの相談を受けるにあたって、地域課題として最近気になると感じている相談または、関わっている地域で課題と感じていることは何ですか。
また、主な課題内容を具体的に回答欄にご記入ください。

市民からの相談を受けるにあたって、地域課題として最近気になると感じている相談や、地域で課題と感じていることについて、「福祉サービス」と「経済的な問題」が33.3%と最も高く、次に「社会からの孤立」が22.2%となっている。



地域の課題の主な内容は次のとおりである。

(1)福祉サービス

- ・福祉サービスの利用の仕方が分からない人が増加している
- ・制度が活用されていない、周知が行き届いていない
- ・福祉サービスが知られていない、内容がわかりにくい

(2)経済的な問題

- ・金銭管理が出来ない
- ・経済的困窮により、家庭が荒れている世帯が増加している
- ・低所得者が入所できる施設が少ない

(3)社会からの孤立

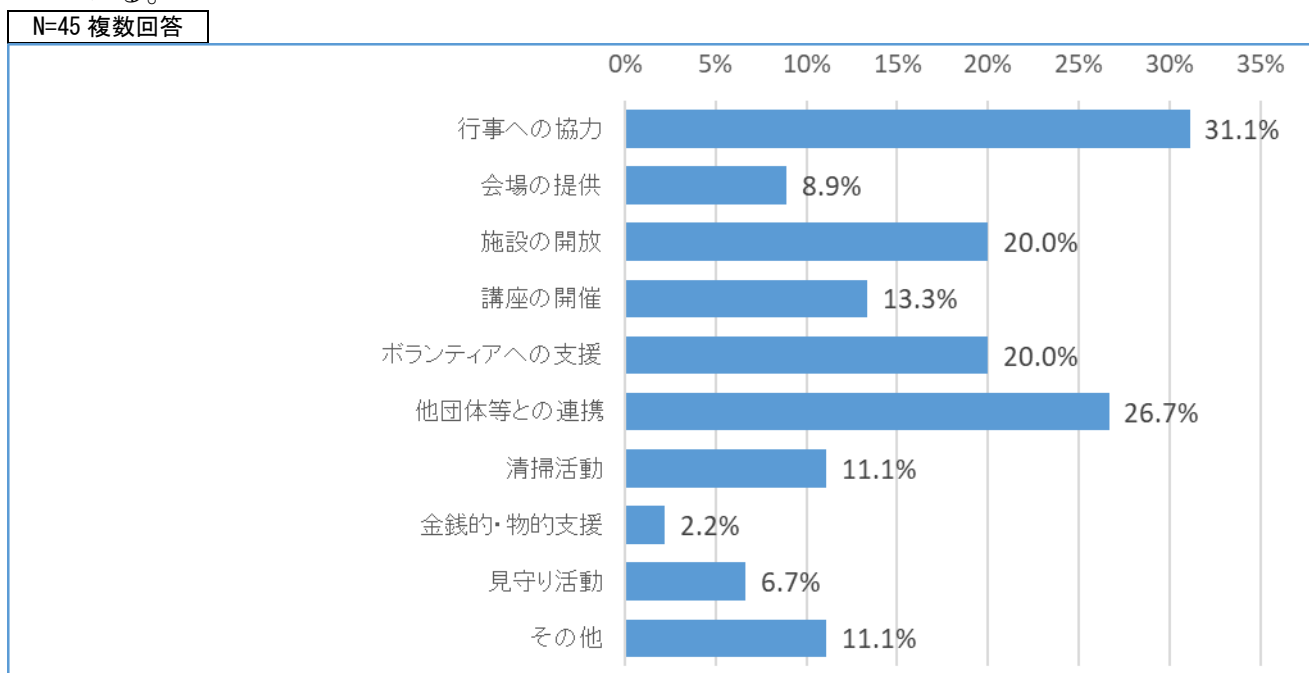
- ・家族関係が疎遠で、近隣とも関わりがない孤立した方から、相談を受けた時点で対応困難な問題が増加している
- ・身寄りがなく近隣と関わりがない一人暮らしの高齢者の対応
- ・精神障害、認知症により引きこもり等の問題

(4)災害時の備え

- ・避難所までの距離があり、移動が困難
- ・介護が必要な人の避難先及び必要な物品が確保できていない

問 8 現在、地域とどのような関わりをもっていますか。また、地域との関わりを具体的に回答欄にご記入ください。

地域との関わりについて、「行事への協力」が31.1%と最も高く、次に「他団体等との連携」が26.7%、「施設の開放」と「ボランティアへの支援」が20%となっている。



主な地域との関わりについては次のとおりである。

(1)行事への協力

- ・手伝い人員の協力
- ・地域行事への参加協力、福祉系催事への物品貸出
- ・町内会行事に、利用者とともに参加している

(2)他団体との連携

- ・地域の会議に参加
- ・民生委員児童委員、町内会、警察との連携
- ・NPO活動団体への場（部屋）の提供

(3)施設の開放

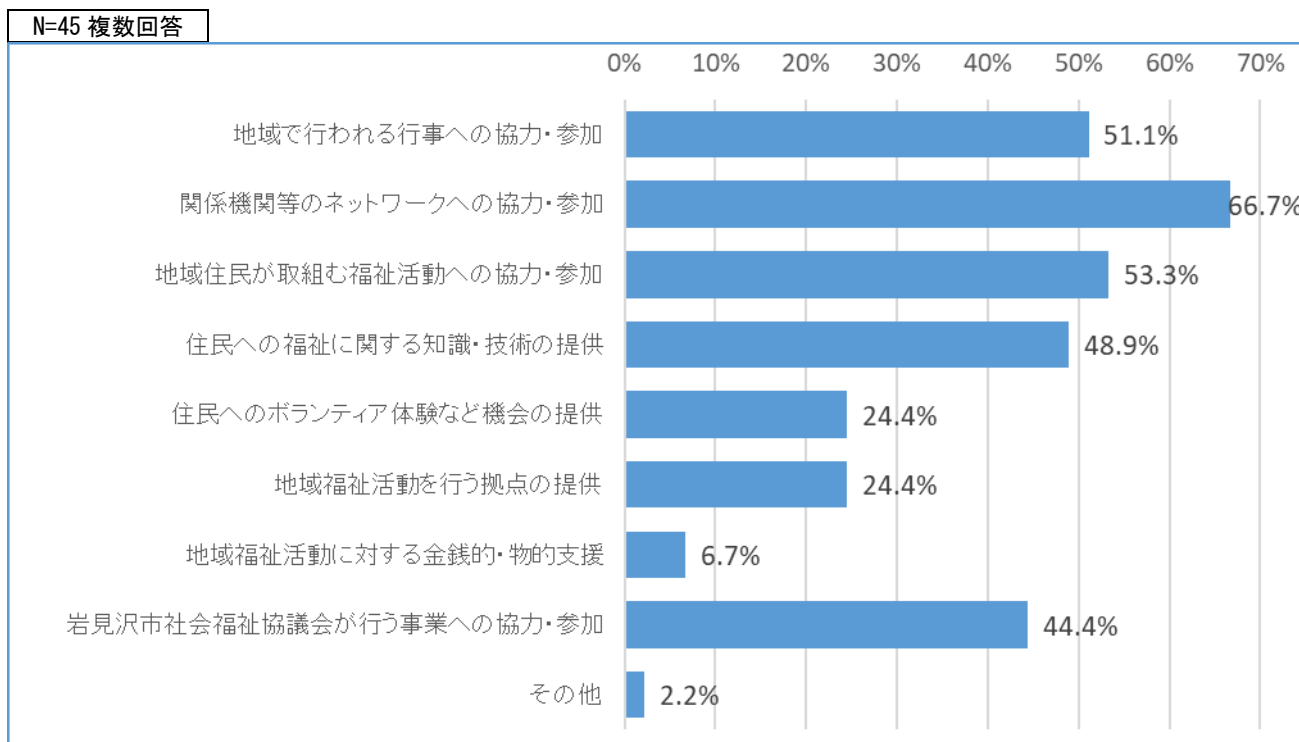
- ・グラウンド、パークゴルフ場の無料開放
- ・施設の会議室を地域住民も利用ができるようにしている
- ・地域のお祭りで施設をトイレ・休憩室として開放している

(4)ボランティアへの支援

- ・現地までの送迎
- ・機材の貸出
- ・行事へのボランティア依頼の際は、食券等を渡している

問9 貴施設・事業所の中で、今後、地域とどのような関わりをもつことが必要だと思いますか。

地域とどのような関わりをもつことが必要だと思うかについて、「関係機関等のネットワークへの協力・参加」が66.7%と最も高く、次に「地域住民が取り組む福祉活動への協力・参加」が53.3%、「地域で行われる行事への協力・参加」が51.1%となっている。



問 10 社会福祉法人制度の改革として掲げられた「地域における公益的な取組」を実施していますか。実施している場合、具体的な取組をご記入ください。

社会福祉法人のうち、「地域における公益的な取組を実施している法人」は 13.3% となっている。

N=45



実施している主な取組は次のとおりである。

(1)地域への施設開放及び行事の協力・参加等

- ・ 地域への施設開放
- ・ 地域で行われる行事への協力・参加
- ・ 地域住民が取組む福祉活動への協力・参加

(2)地域への職員派遣や講座開催

- ・ 住民への福祉に関する知識・技術、ボランティア体験など、職員派遣や講座の開催等

(3)行事への招待

- ・ 利用者の家族、ボランティア、地域の子どもたちを招待し、施設行事を実施している

(4)福祉サービスの利用支援

- ・ 独居の障がい者の方で、サービスを利用していない方の入退院の支援等

【課題】

市民からの相談を受けるにあたって地域課題としては、「福祉サービス」と「経済的な問題」が最も高くなっていることから、認知症や障がいにより福祉サービスの内容が理解できず申請等が出来ない方や金銭管理が困難で生活に支障がある方など判断能力の不十分な方が増加していることがうかがえます。

その次に「社会からの孤立」が上位となっていることから、引きこもりや親族とは疎遠で近所との関わりがなく、相談を受けた時点で対応困難な孤立者が増加しており、問題が深刻化・複雑化する前の発見や地域で支える活動等が必要となっていることがうかがえます。

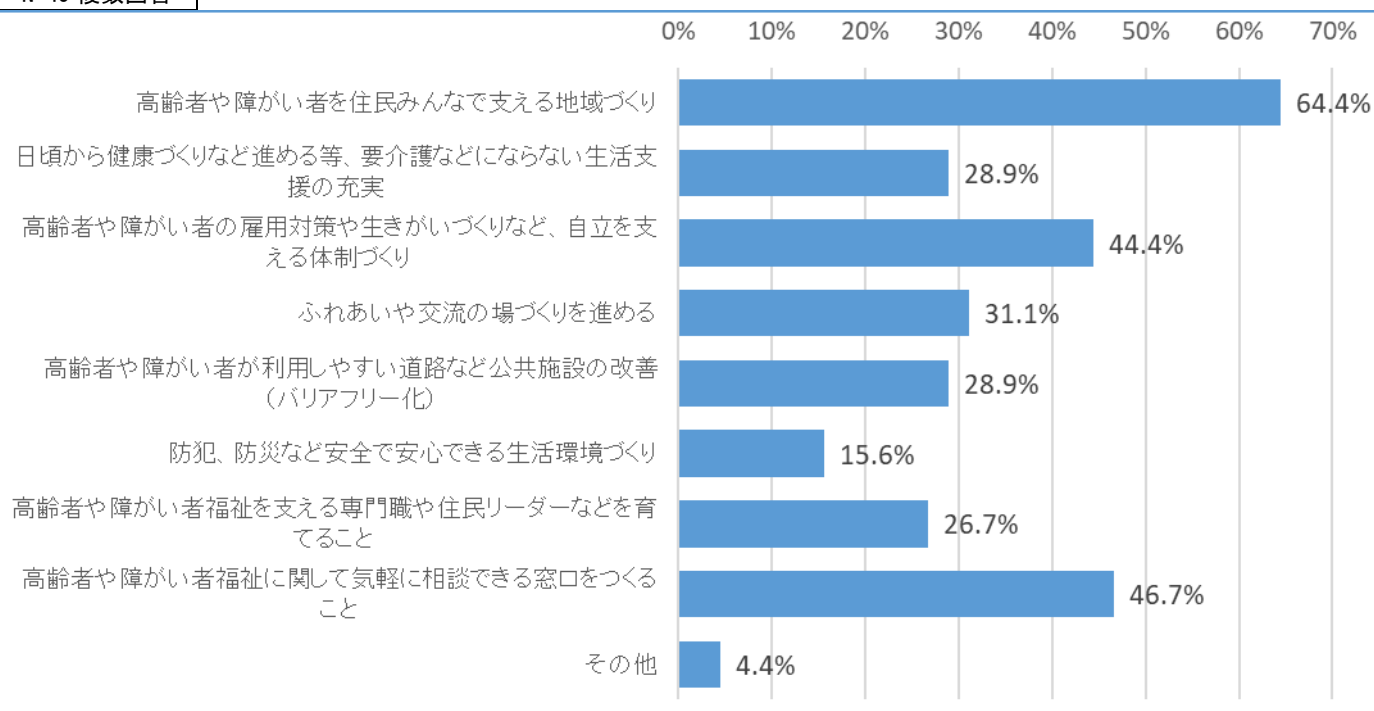
今後必要とされる地域との関わりについては、「関係機関等のネットワークへの協力、参加」や「地域住民が取り組む福祉活動への協力・参加」が上位となっており、地域への施設開放や行事の参加、協力を通じて、町会、ボランティア等との関係を築き、福祉活動への支援の広がりが期待されます。

4 その他・自由意見

問 11 高齢者や障がい者（児）が住みよいまちをつくるため、今後どのようなことが重要だと考えますか。

今後重要だと思われるものについて、「高齢者や障がい者を住民みんなで支える地域づくり」が64.4%と最も多く、次に「高齢者や障がい者福祉に関して気軽に相談できる窓口をつくること」が46.7%、「高齢者や障がい者の雇用対策や生きがいづくりなど、自立を支える体制づくり」が44.4%となっている。

N=45 複数回答



【課題】

住みよいまちづくりとして、今後重要だと思われるものについて「住民みんなで支える地域づくり」が最も多く、次に「福祉に関して気軽に相談できる窓口をつくること」が上位を占めていることから、地域住民の主体的な福祉活動への支援や市民が気軽に相談できる身近な福祉の相談窓口の普及や福祉に関する情報の提供が求められていることがうかがえます。

**問 12 地域における助け合いや福祉の充実した住みやすい地域づくりについて、ご意見
やご提案がありましたら、ご記入ください。（自由記載）**

(1)地域で支える仕組みづくり 4件

①	地域福祉の基本は地域住民が福祉に関心を持つことが大切と思う。それか住民に対して意識づけをするかが大事だと思います。
②	高齢者、障がい者等を地域で支える地域づくりが重要。
③	就労やスポーツレクリエーション等、様々な支援も必要ですが各事業所が整ってきていますので、地域で支える支援として防犯、防災に関する事項の整備が必要と思われます。
④	市内からも人を呼べる地域づくり。

(2)移動支援について 4件

①	地域の高齢化、人口減少により交通手段がなく買い物などの移動支援。
②	障がいや疾病があっても、遠方でのイベントや訪問が出来るような移動支援。
③	現在の福祉バスの利便性や回数、行き先の改善。
④	公共バスとのつながりを考え、公共バス料金の助成。

(3)福祉サービス等の周知 3件

①	認知症や障がい者に対する偏見をなくすための研修や出前講座的なものを行い、広く市民に理解してもらう取り組み。
②	何よりもサービス種類の周知不足を改善したほうが良い。(何が利用できていくらくらいかかるのかが周知されていない以上、負担金額がネックとなり見送りされている方が多いと思います)
③	共生型事業に対しての、各事業所及び行政の理解、市民への働きかけが必要。

(4)その他 2件

①	各事業所同士で連携をしないことで、充実を防がれているようにも思います。お互いに相談をもっとできるようにした方が良い。(特に個人事業主や経営されている方は、自分の利益が減ってしまうので利用者に適正な対応をお願いしていないような人がいた)
②	介護保険による規制も岩見沢市で地域の特色において独自の規制緩和を考えてほしい。

高齢者など要支援者に対する交通手段への意見が多く支援が求められることがうかがえます。

問 13 岩見沢市社会福祉協議会に対して、ご意見・ご提案等がありましたら、ご記入ください。（自由記載）

4 件

①	介護保険サービス事業所（居宅介護・訪問介護・通所介護）は基盤整備されてきているので競合して他事業所を圧迫しないよう段階的に縮小し、社協にしかできない事業を強化して欲しい。
②	職員向けに講座等を実施してほしい。（成年後見制度や社協実施事業の説明等）
③	施設の運営に関し、行事の場面ではボランティアが多く必要となります。ボランティアの発掘・養成にご尽力いただきたいと思います。
④	市民後見制度の活用を視野に入れていきます。ご協力をお願いします。

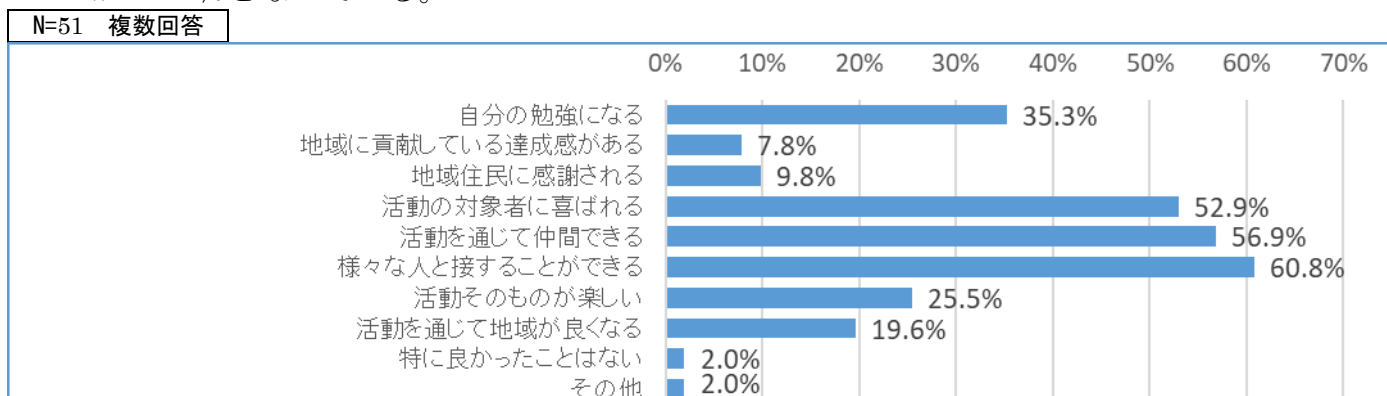
成年後見制度などの講座の開催希望や活用を検討する意見があり、成年後見支援センターが期待されていることがうかがえます。

アンケート調査結果（ボランティア団体・福祉団体・地域ふれあいサロン）

1 活動の状況について

問1 活動していて良かったことは何ですか。

活動していて良かったこととして、「様々な人と接することができる」が60.8%と最も高く、次に「活動を通じて仲間ができる」が56.9%、「活動の対象者に喜ばれる」が52.9%となっている。

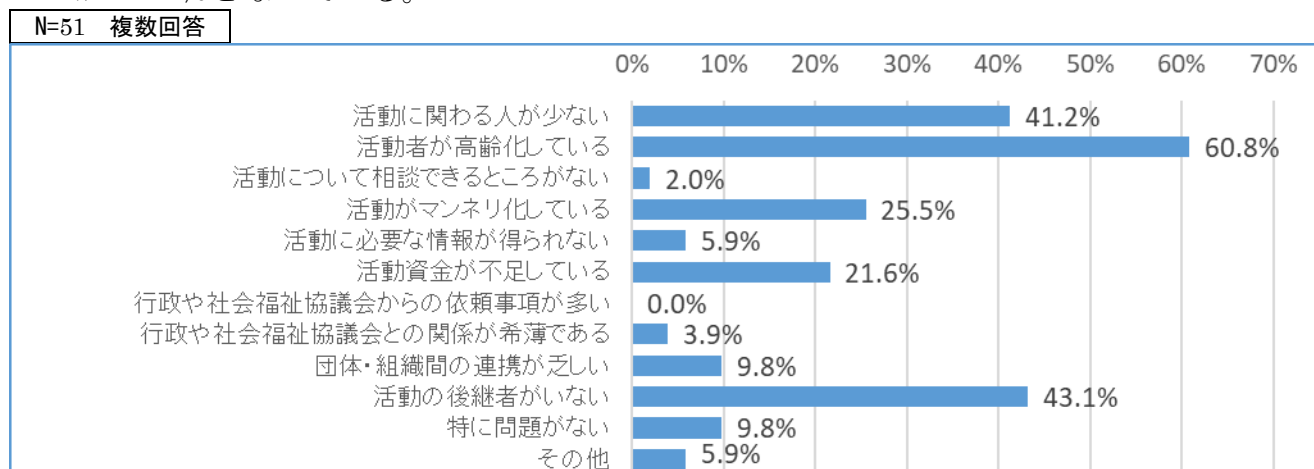


【その他】

- ・生きがいを感じる
- ・企業との連携を図ることができる

問2 活動している上で特に困っていることは何ですか。

活動している上で特に困っていることとして、「活動者が高齢化している」が60.8%と最も高く、次に「活動の後継者がいない」が43.1%、「活動に関わる人が少ない」が41.2%となっている。



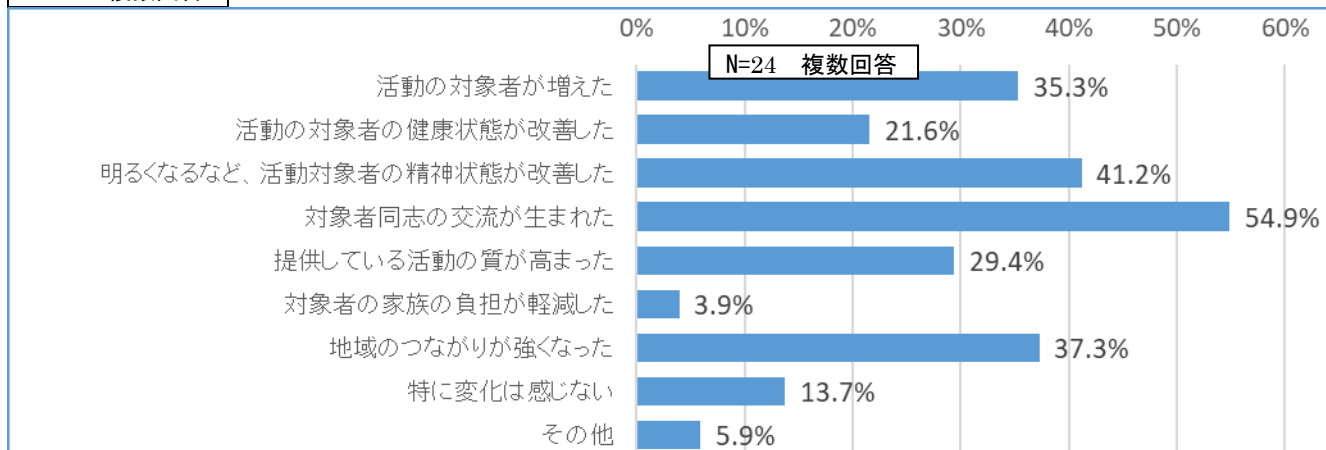
【その他】

- ・参加者の固定化
- ・独居高齢者の参加不足
- ・参加者の移動の問題

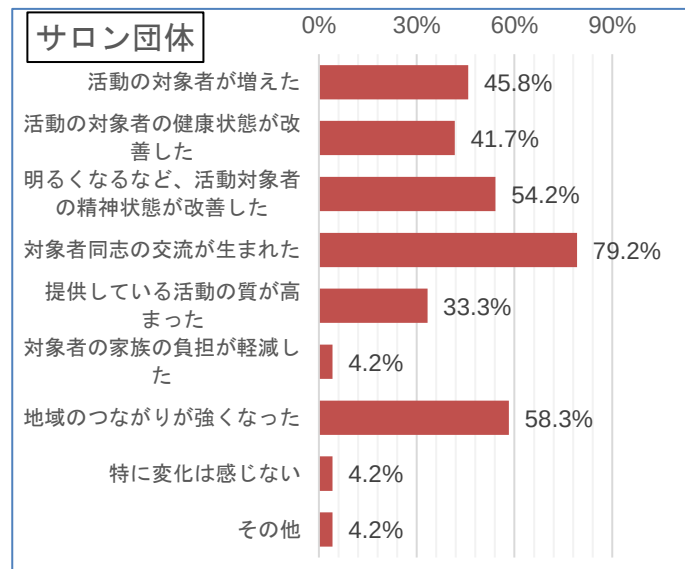
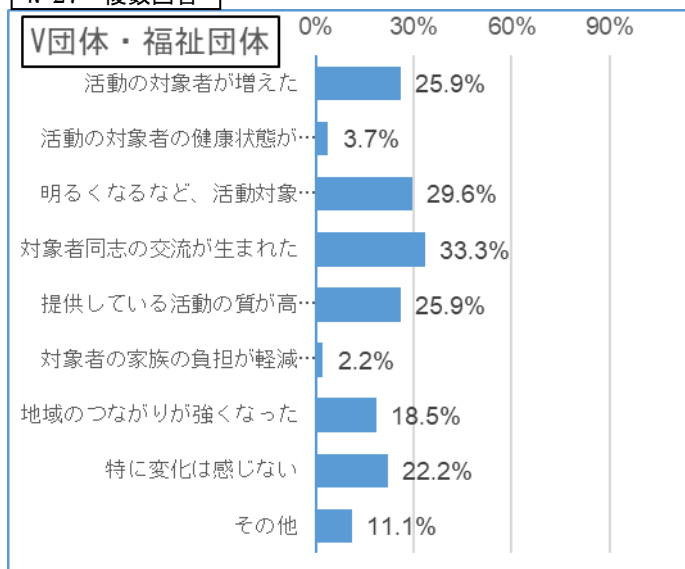
**問3 ここ5年間で、自分たちの活動を通じて、地域や対象者等が変化したと感
じることはありますか。**

活動を通じて、地域や対象者等が変化したと感じることとして、「対象者同志の交流
が生まれた」が54.9%と最も高く、次に「明るくなるなど、活動対象者の精神状態が
改善した」が41.2%、「地域のつながりが強くなった」が37.3%となっている。

N=51 複数回答



N=27 複数回答



【その他】

- ・福祉的就労者が増加している
- ・対象者の利用が減少

【課題】

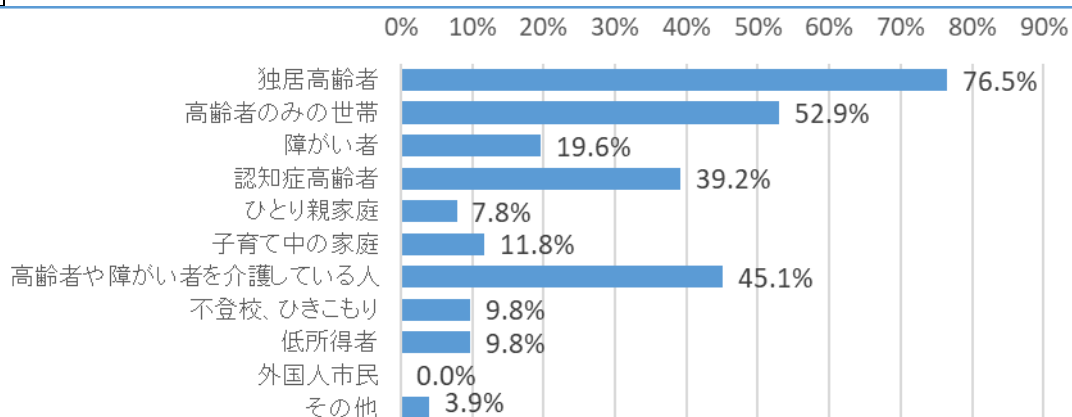
活動者の高齢化、後継者不足など「担い手の確保・育成」が深刻な問題となっている。
新たな活動者の募集に、「活動を通じて仲間ができる」や「地域のつながりが強くな
った」など、活動を通じてのやりがいや活動地域又は対象者の状況変化等を効果的に周
知していくことが重要だとうかがえます。

2 地域福祉の状況について

問4 地域において、これから特に支援が必要だと思う対象は誰ですか。

地域において、これから特に支援が必要だと思う対象者として、「**独居高齢者**」が76.5%と最も高く、次に「**高齢者のみ世帯**」が52.9%、「**高齢者や障がい者を介護している人**」が45.1%となっている。

N=51 複数回答



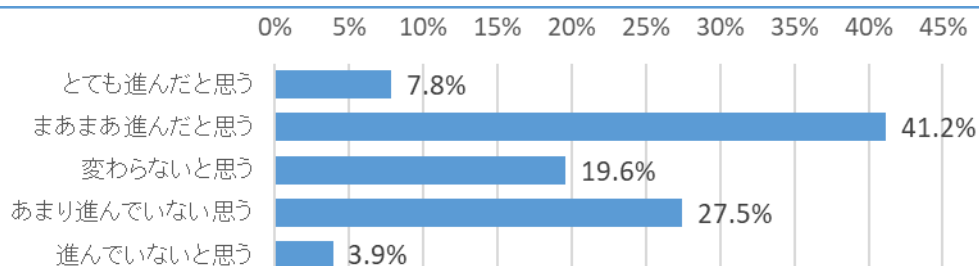
【その他】

- ・保護者への支援
- ・一人暮らしの中高年（男性）の支援

問5 ここ5年間で、地域福祉が進んだと思いますか。

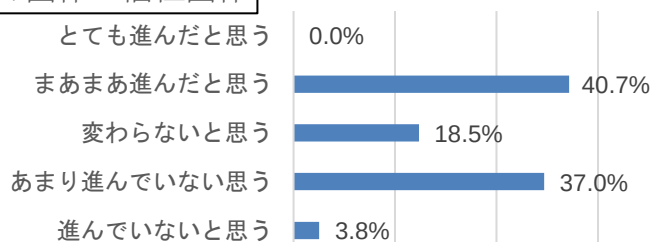
地域福祉の進みについては、「とても進んだと思う」と「まあまあ進んだと思う」を合わせ「**進んだと思う**」が49%、「あまり進んでいないと思う」と「進んでいないと思う」を合わせ「**進んでいないと思う**」が31.4%となっている。

N=51



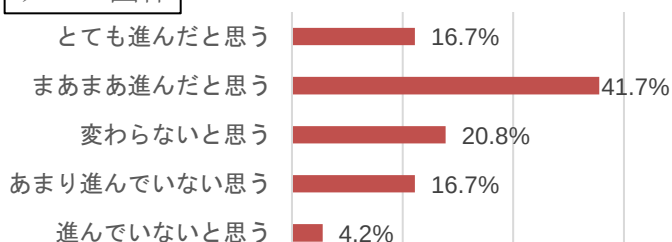
N=27

V団体・福祉団体



N=24

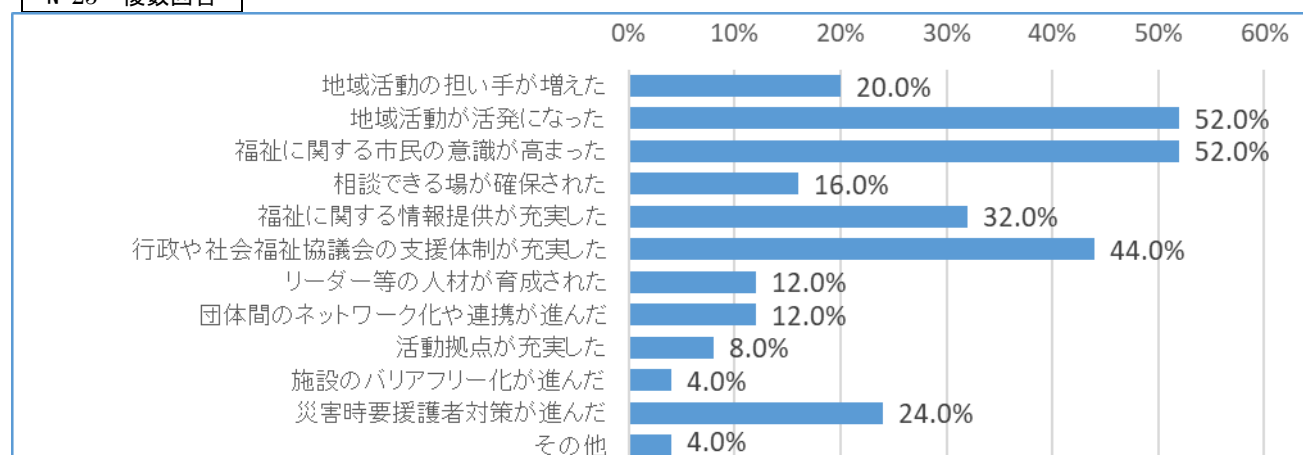
サロン団体



**問6 問5で「1」または「2」と答えた方におたずねします。
進んだと思う具体的な理由は何ですか。**

進んだと理由として「地域活動が活発になった」と「福祉に関する市民の意識が高まった」が52.0%と最も高く、次に「行政や社会福祉協議会の支援体制が充実した」が44%となっている。

N=25 複数回答



【その他】

- ・子育て支援については、行政の保障が充実してきていると感じている

【課題】

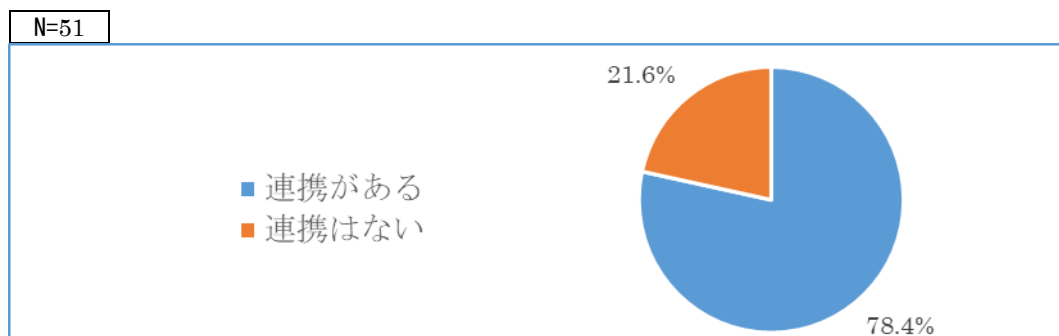
地域において、支援が必要な人は、高齢者やその高齢者を介護している方が上位となっていることから、孤立しないよう、地域住民による見守りや地域交流活動を通じての取組が必要だとうかがえます。

また、地域福祉の状況の評価は、「進んだと思う」と「変わらない・進んでいない」が拮抗しているが、サロン団体活動者では、「とても進んだと思う」割合が高く、地域交流活動を通じて地域福祉の活性化、福祉に関する市民の意識が高まっていることがうかがえます。

3 他団体との連携について

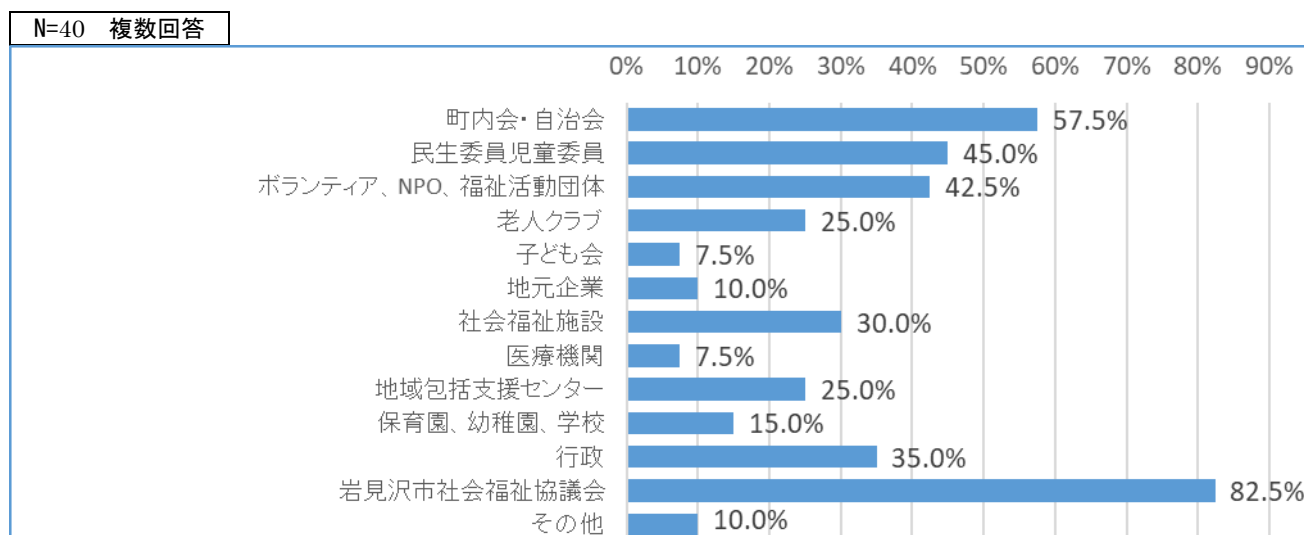
問7 地域活動の中で、他団体との連携はありますか。

「他団体と連携がある団体」は78.4%となった。



問8 問7で「1」と答えた方におたずねします。連携がある組織・団体は次のうちどれですか。

連携がある組織・団体として「岩見沢市社会福祉協議会」が82.5%と最も高く、次に「町内会・自治会」が57.5%、「民生委員児童委員」が45%となっている。



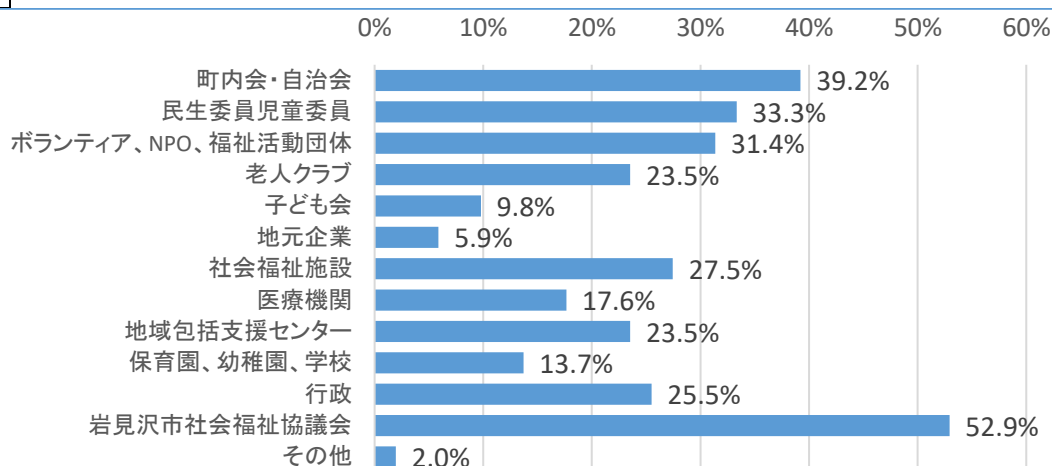
【その他】

- ・保健センター
- ・保健推進員、ふまねっと指導員
- ・保護司会
- ・警察署

問9 これから連携していきたい組織・団体は次のうちどれですか。

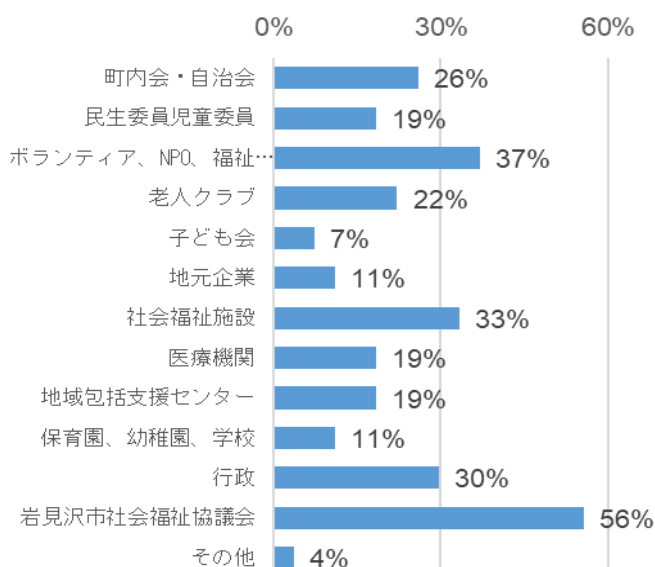
これから連携していきたい組織・団体として「岩見沢市社会福祉協議会」が52.9%と最も高く、次に「町内会・自治会」が39.2%、「民生委員児童委員」が33.3%となっている。

N=51 複数回答



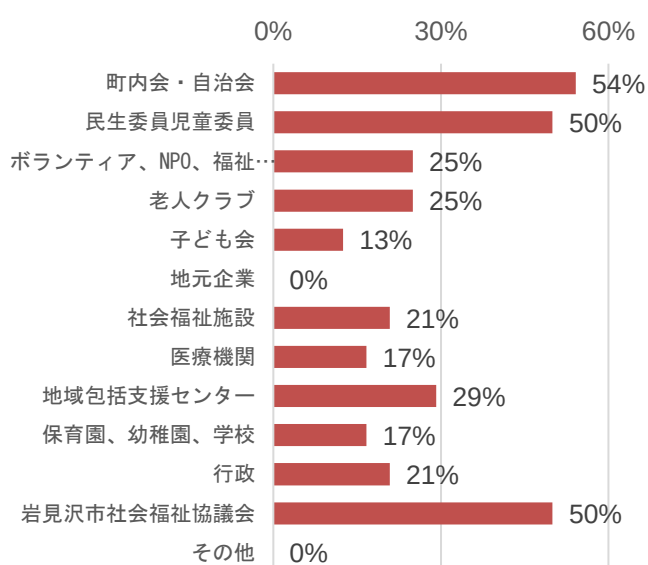
N=27 複数回答

V団体・福祉団体



N=24 複数回答

サロン団体



【課題】

「連携がある」「これから連携したい」とも社会福祉協議会や町内会・自治会、民生委員児童委員があがっており、地域や住民を対象とした活動に対する支援・連携の強化が求められていることがうかがえます。

4 その他・自由意見

問 10 地域における助け合いや福祉の充実した住みやすい地域づくりについて、ご意見
やご提案がありましたら、ご記入ください。

(1) 話し合いの場、研修会、交流会の開催について (4 件)

①	3～5年に1回くらい、地域ごとに、組織・団体が集まって現状課題や展望を話し合える場があればよい。縦割りで、各組織のことしかみえず、連携につながらないため。
②	岩見沢でも進んでいる高齢化の狭間であえぎ苦しみ悩んでいる高齢者の皆さんに温かい手を差し伸べることができる仕組ができないのか、各関係機関が努力してほしいです。とにかく高齢者の皆さんの生の声を聞くことから始めて頂ければと思います。
③	高齢化社会における地域福祉とは何なのかを皆で勉強する場が欲しい。
④	活動をしているとどうしてもマンネリになり、だんだん活力に欠けるような気がします。これを克服するために、他地域・団体との交流で、経験を積んでいきたいと考えています。

(2) 憩いの場・仲間づくりの場、サロン等の普及について (4 件)

①	要介護・支援に至らない（施設利用ができない）方たちの憩いの場所が多くできると良いと思います。
②	市の健康づくり活動に住民が協力して主体的に取り組むための「仲間づくり」の場所が多くなればと思います。
③	地域の中で住民に孤立する人がいないよう、なんらかのつながりを持てるような施策（人材育成を含めて）が大切だと思います。現在、サロンを開いたり、地域で集まりをもって活動しているのを見聞しますが、そのような活動がさらに広がるよう支援していただけるとありがたいです。
④	サロンをつくり、6年が過ぎました。参加される皆様が毎回、楽しみに参加されていることがとても嬉しいです。これからもできる限り、サロンを継続し続けることが希望です。参加される方も、いきいきとされていることが、心の弾みとなっています。意見・提案とはなりませんけれどもこれからも頑張っていきたいと思っています。

(3) 移動支援について (3 件)

①	自家用車が使用できなくなったときに、利用しやすいバスの小型化と、時間、交通網の整備と宣伝で交通を良くしてほしい。
②	電車や公共のバスが通っている所まで自力で出ていけない人が増えてきています。乗り合いの福祉タクシーなどが予約制でまわってくださると良いのではと思っています。
③	高齢化が進み歩行が困難な方が多くなってきている。タクシー代の一部補助や巡回のジャンボタクシーを、安い料金で利用できると良い。

(4) 個人情報等の取り扱いについて (2 件)

①	連絡網の作成に伴う電話番号の扱い方、参加者の増加に向け行う活動等についての 2 点について。各家庭の事情や個人の身体的な問題等、助け合いにはある程度の情報開示がないと接し方が難しい。
②	避難行動要支援者の避難支援について、個人情報の取り扱いが、活動のネックに。個人情報の取扱いを緩和すべきでは。(避難支援のためにも)

(5) 町会・自治会活動について (9 件)

①	町内会組織の活動、ご近所との交流が今現在は良好でありあまり考えることはありませんでしたが、今後の 10 年後の高齢化に向けての課題として町内会の活動維持をどうすべきかを今から考えていかなければならないと思います。
②	安全・安心な住みやすい地域活動イコール町内会活動と認識。AP、MS 住民の町内会未加入問題がすべての問題に波及。極端な例かもしれませんが、市の条例等で市民は町内会加入を義務づけては。
③	町内会も女性部がなくなり、子ども会もなくなり、町内の行事が本当に少なくなりました。
④	町内会の活動を活発にしたいと思うのですが、なかなかうまくいきません。何かご助言がいただければ(たとえば冊子など)と希望します。
⑤	狭い地域で高齢化が進んでいる割にはボランティア等や、各自の意識が助け合うという住みやすい地域です。
⑥	「住み良い街」とは“健やかにして穏やか”であることが求められており、身の丈に沿った生活環境整備等により、「見守り、支え合い」の共働を励行し、安全・安心を維持している。
⑦	「福祉の充実した住みやすい地域」とはどんな状態を示すのだろうか? 「地域ふれあいサロン」、「ふれあい推進協議会」、「老人クラブ」、1 つの町内会に 3 つの組織があり、全てに町内会が関わりを持ち、それぞれが活動しています。このままの活動で良いか疑問を持ちながら何か新しいイベントを考えながら活動を続けています。
⑧	町内会で日常の見守り、緊急時の対応を、現在の防災組織を上手く活用していこうと検討中ですが、何か他町内会の事例がありましたら、参考にしたい。
⑨	他の町内会との交流。

(6) 障がい者への支援について (1 件)

①	道の「障害者就労支援企業」認証制度がありますが、岩見沢市ではまだ 2～3 企業です。道の制度の充実もありますが、岩見沢市独自の認証制度もあると良いと思います。道の制度もあるが、活用も不十分(理解度)です。
---	--

(7) その他 (2 件)

①	参加者は固定化してきているが、各々充実した時を過ごせています。そして顔のつながりができてきている。反面、もっと多くの会員に参加してもらいたいが、なかなかそうならないことが、ちょっと悩みです。
②	岩見沢社協のご支援ご協力のもと何とか軌道にのっており、感謝しております。対象は高齢者ですが、高齢者ができること、知識や小さなボランティア、施設の見学等行っています。研修会や行事等に参加し活動の大切さを知っていただき自主的な働きを願いながら少しでも地域にとけ込み健康で楽しい集まりであるようにしたい。そして地域の人々の理解を得て、交流をしていきたいと考えております。

地域における助けあいや福祉の充実した住みよい地域づくりには、町内会・自治会活動が 9 件と最も高く、町内会・自治会活動への期待が大きいのがうかがえます。

問 11 岩見沢市社会福祉協議会に対してご意見・ご提案等がありましたら、ご記入ください。

(1) 活動の周知・広報について (2 件)

①	他町内会等のサロンの情報（集まる手法、内容など）をお知らせ願いたい。
②	時間に余裕がある方や活動意欲のある方に対する魅力あるわかりやすい PR を積極的に行い、気楽に参加、団体活動内容を理解していただくことが必要かと思います。

(2) 話し合いの場、情報交換会等の開催について (2 件)

①	地域ごとに団体に集まり現状課題を話し合う際の取りまとめ役となってほしい。
②	今までは他のサークルとの情報交換の場を設けていただけていますが、もう少し踏み込んだ活動の企画がないでしょうか。充実した「福祉社会」とは具体的にどのような状態を指すのか定義みたいな指針があればと思います。

(3) 制度の狭間の方に対する支援・仕組みづくりについて (1 件)

①	制度の狭間で苦しんでいる高齢者を助けることのできる仕組みづくりのリードを社会福祉協議会に担っていただきたいです。
---	--

(4) 個人情報の取扱いについて (1 件)

①	個人情報の取扱いについて、事例集等を発行していただきたい。
---	-------------------------------

(5) 活動・助成支援について (6 件)

①	様々にして細やかな支援事業（サロン等）が高齢者の喜びや楽しみになっていることにつき感謝している。少額支援でも社会のつながりを意識させることの活動が地域活動の活性につながるものと意識している。
②	本当に福祉活動のことを市としても、真剣に思うなら、もう少し年間の活動費を増やしてほしいです。市の方からも援助して頂くとか。私たちの持ち出しもありますし、これ以上サロンのメンバーを多くしていけません。お願いいたします。
③	助成金の支給等、支援に感謝している。
④	サロンを開催していると、遊び（集団）で利用できる道具が多数あれば良いと思います。
⑤	いつも総会や学習会で研修室を使わせていただき、感謝しております。助成金についても活動資金の少ない中での運営のため、大変助かっております。
⑥	過疎と高齢の地域です。きめ細かい対応が欲しいです。

(6) 移動支援について (1 件)

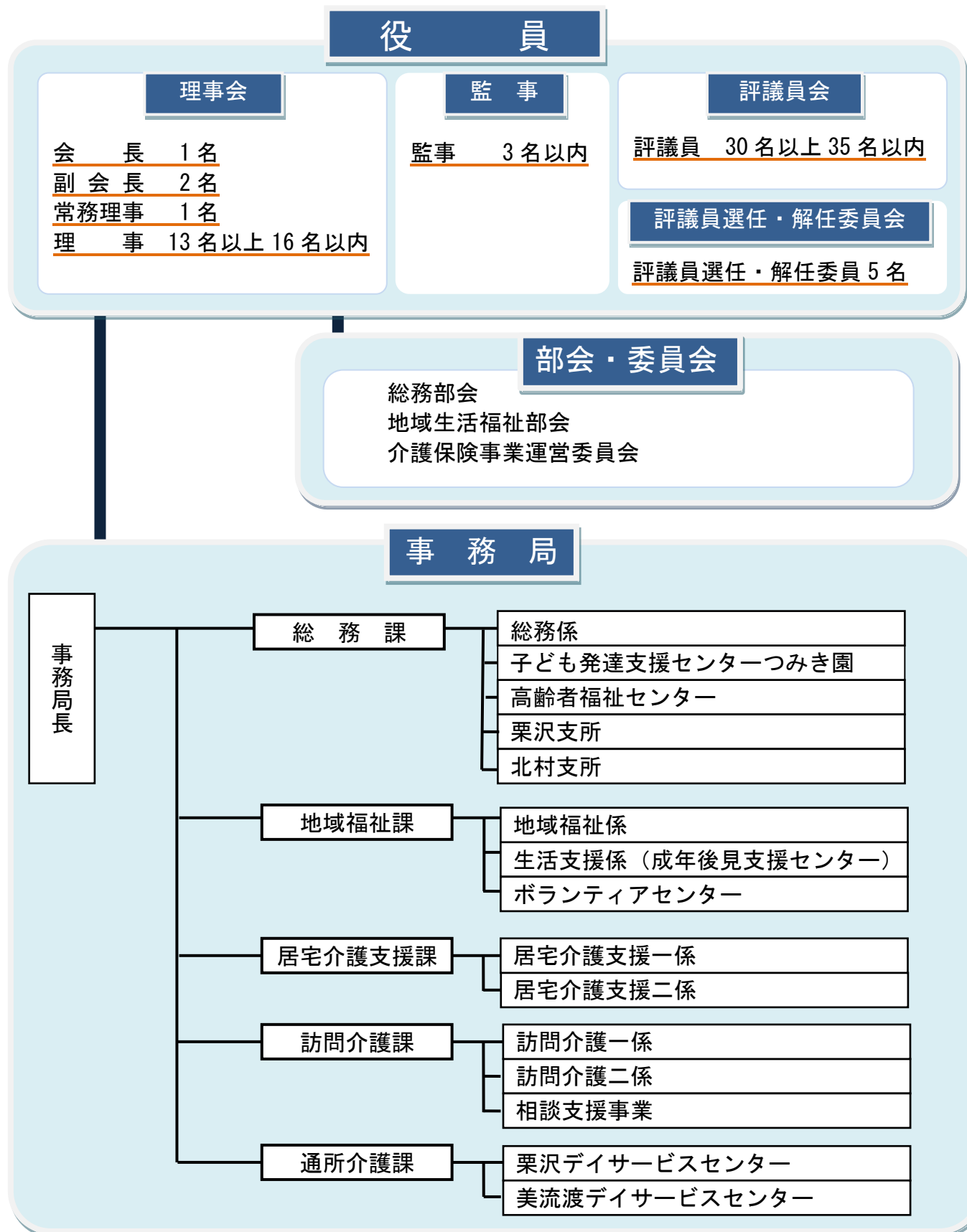
①	店もなくなり、バスも相変わらず少なく、岩見沢の中心街の方へ出る方があまりいないと思う。夏のうちは自転車で出れますが、高齢者はできません。岩見沢も今後の高齢社会を考えたら、コミュニティバス、低賃金で乗れる乗り合いバス等を本当に真剣に考えてほしいと思います。
---	---

(7) その他 (11 件)

①	対応に十分、満足しています。
②	「少ない予算と大きな福祉事業」を検討願います。
③	毎度、ご指導をいただき有り難く、厚くお礼申し上げます。
④	様々な福祉活動の展開に敬意を表しています。
⑤	このアンケートに記入することで色々と考えさせられました。社会福祉協議会への意見というより、私たち（私）自身の意識の問題を改めて振り返りました。
⑥	日頃からのご支援を深くお礼申し上げます。サロン立ち上げにも大きな力をいただきました。また、若い職員の方々にはご多用の中を快くかけつけ、ご指導をいただきました。皆喜んでおりました。皆さまの親切と笑顔がとても良いと思います。今後ともよろしく願い申し上げます。
⑦	大変お世話になっております。今後とも本会にご協力いただきますようお願いいたします。
⑧	日頃から大変お世話になっております。細かい気配りがありがたく、助かっています。今後、ますます高齢者に対する問題が増えてきます。私どもも地域で少しでも住みやすく明るく暮らしていけるように一緒に楽しい活動をしていきたいと思っていますので、頼りにしています。よろしくお願いします。
⑨	地域社会をみてもひとり親家庭をみても将来に対する不安は増すばかりです。社協さんの役割はますます必要とされるはずです。市民との接点となられますことを希望いたします。職員さんの笑顔はとても嬉しいです。
⑩	社会福祉協議会とは？と役員の中でも地域に身近に感じていない。どうしたらいいのかと。
⑪	理事、評議員が固定化されているのではないのでしょうか。

社会福祉協議会に対する意見は多岐に渡り、地域福祉活動の中核的な役割として地域福祉事業の積極的な推進が望まれていることがうかがえます。

4 社会福祉法人岩見沢市社会福祉協議会組織機構図



岩見沢市社会福祉協議会地域福祉活動計画

平成30年4月

編集・発行

社会福祉法人岩見沢市社会福祉協議会

〒068-0031 岩見沢市11条西3丁目1番地9

TEL0126-22-2960 FAX0126-24-4977

E-mail iwamizawa-syakyo@helen.ocn.ne.jp

HP <http://www.iwamizawa-syakyo.or.jp/>